

第3章 施策の展開と評価

各ページの説明

各環境分野における環境指標（ゴール指標）の達成状況及び評価を行っています。

1

計画指標 (ゴール指標)		自然環境の住民満足度					単位:%
2019年度 実績値		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2030年度 目標値
16.5	目標値	-	-	-	20.35	-	25
	実績値						

※環境基本計画策定(改定)時の市民アンケートに基づくため、2021年度は空欄(次回は2024年度)

2

【計画指標に対する評価】

自然環境の住民満足度を調査する市民アンケートについては2024年度を環境基本計画策定(改定)時を予定しているため、2024年度の目標値達成に向けて、各取組を行っております。公園管理や市民農園の開設などの緑地保全や定期的な河川バトロールなど水辺環境の整備を行い、生き物が住みやすい環境を整えることに努めています。また、特定外来生物であるアライグマの駆除数は増加しており、生態系への被害防止につながっていると云えます。

環境啓発イベントについては、新型コロナウイルスの影響により開催できなかったイベントもありましたが、復調の兆しを見せています。また、内容についても、農業体験における生物調査や、外来種駆除と水質改善のためのかいぼりのように複数の目的を達成するイベントを行うことができ、自然環境の住民満足度向上が期待できます。

3

【市民・事業所の行動指針】

- ・興味がある環境啓発イベントに参加する。参加したイベント内容をSNSなどを利用し、周囲に啓発する。
- ・生き物が住みやすい環境を作るため、地域の清掃活動に参加するなど、緑地や水辺での環境保全に努める。

No.	項目名	内容
①	計画指標	各環境分野の指標（ゴール指標）です。
②	計画指標に対する評価	計画指標の達成に向けて実施した業務指標・実行施策から評価を行っています。
③	市民・事業所の行動指針	計画指標に対する評価から、市民や事業所の取り組んでほしいことを記載しています。

1. 自然環境分野

計画指標 (ゴール指標)		自然環境の住民満足度					単位:%
2019年度 実績値		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2030年度 目標値
16.5	目標値	-	-	-	20.35	-	25
	実績値	-	-	-			

※環境基本計画策定(改訂)時の市民アンケートに基づくため、次回アンケート時(2024年度)に確認する。



【計画指標に対する評価】

生物多様性への取組や緑地の保全・創出については、土地所有者の相続等により、生産緑地やふれあいの森の解除が発生したことで、緑地面積や緑地率が減少しました。減少を食い止めることは困難な状況ではありますが、生産緑地の追加募集の実施や埼玉県と協働して緑地の公有地化を図っていくことで、状況の改善を図ってまいります。一方で、特定外来生物の駆除数については、箱わなの貸出し可能数を増やしたことで、目標値を達成することができました。野生生物のため、正確な生息数を把握することは困難ですが、引き続き、箱わなによる捕獲・駆除を継続することで、生物多様性の保全に努めます。

自然とのふれあいの促進や水辺環境の保全・整備については、水辺に親しめるような護岸づくりを目指し、水辺環境の保全や生き物の生息空間づくりを考慮しながら、(準)上尾中堀川において、多自然型護岸の整備を進めています。また、上尾丸山公園の「かいぼり」実施を起点に、市民と協働して保全活動を継続したことで、希少な生物を再生することに成功しました。サクラソウトラスト地の保全活動についても、継続して実施したことで希少な生物を保護することができました。こうした体験を通して、市民への生物多様性への啓発にもつながっています。

【市民・事業所の行動指針】

- ・興味がある環境啓発イベントに参加する。参加したイベント内容をSNS[※]などを利用し、周囲に啓発する。
- ・生き物が住みやすい環境を作るため、地域の清掃活動に参加するなど、緑地や水辺での環境保全に努める。

【施策1】生物多様性への取組

1. 基本情報

施策目標	生物多様性 [※] の保全と生態系サービス [※] の持続可能な利用に向けて、生物多様性を「知る」、生き物の生息・生育環境を「守り、育てる」などの施策を展開し、樹林地、水辺、河川などの良好な自然環境を保全するとともに、上尾市本来の自然の豊かさを将来の世代に伝えていきます。			
環境分野	自然環境分野			
計画指標	自然環境の住民満足度			
	2019年度実績値	16.5%	➡	2030年度目標値 25%
環境目標	自然との共生			

2. 環境目標に対する評価

緑地面積、緑地率が共に減少しているなか、「ふるさと緑の景観地[※]」において、埼玉県と協働して緑地の用地買収を実施し公有地化することで、緑地の保全に努めました。一方で、生産緑地やふれあいの森の解除が発生し、目標値を達成できませんでした。相続等の土地所有者の事情もありますが、今後も緑地の保全に努めていきます。

業務指標の1つである自然観察会の参加者については、目標値を達成できるよう、周知の方法等を再検討します。また、来年度から市民参加型生物調査を実施されることで、生物多様性への理解が深まることが期待されます。

アライグマによる農業被害への対策及び発生防止のため、市民へ箱わなを貸し出しすることで、駆除数の目標値を達成し、地域の農業環境を守る重要な役割を果たしました。また、令和5年度より貸し出せる箱わなの台数を増やしたことが、駆除数の増加につながりました。

定期的な河川パトロールや堆積土の浚渫等を実施し、水質改善に努めることで生態系の保全に寄与するとともに、水田や農業用水路の維持管理作業によって、農業環境の保全に努めました。

3. 関連するSDGsの項目



4. 業務指標の取組状況

No.	業務指標	基準年度実績値	方向性 単位
A	緑地面積	1,264.22	↗ ha
B	緑地率 [※]	27.8	↗ %
C	自然観察会の参加者（累計） （生物多様性への取組）	40	↗ 人
D	特定外来生物 [※] の駆除数（アライグマ）	136	↗ 頭/年
E			
F			

5. 実行施策の取組状況

No.	実行施策
①	市内の緑地や動植物を保護するため、特別緑地保全地区 [※] の指定や「ふるさと緑の景観地」の保全に努めます。
②	地域で親しまれている雑木林や貴重な樹木などを保全するため、保存樹林・保存樹木 [※] の保全に努めます。
③	環境イベント等において情報発信を行い、自然と人との共生につながる生物多様性に関して市民の理解を深めます。
④	市内に生息している動植物の種類や生息環境を知るため、市民参加による自然観察会を行います。
⑤	生物が生息しやすい水辺環境を作るため、河川の水質改善や水辺空間の再生などに努めます。
⑥	多様な生物の生息・生育の場として、水田や畑、農業用排水路などの「農」の環境を保全します。
⑦	地域本来の生物を保護するため、特定外来生物 [※] などによる生態系への被害防止に努めます。
⑧	生き物の生息状況を把握するため、市民団体や環境保護団体にヒヤリングを行うことで情報や知識の集約に努めます。
⑨	
⑩	
⑪	
⑫	

	R3	R4	R5	R6	R7	取組状況等	翌年度の方向性	担当課
目標値	1,264.22	1,264.22	1,316.04	1,316.04		「ふるさとの緑の景観地」における土地の公有地化や特定生産緑地制度の周知等で緑地面積の維持を図ったが、生産緑地やふれあいの森の解除が発生したことにより緑地面積の目標値を下回った。令和5年度は、生産緑地の追加指定について実施し緑地面積の維持に努めていく。	継続	みどり公園課
実績値	1,264.22	1,252.31	1,244.43					
目標値	27.8	27.8	28.9	28.9		市内各地区の象徴として守ってきた保存樹木や特別緑地の所有者に対して奨励金を交付したが、生産緑地やふれあいの森の解除が発生したことにより、緑地率の目標値を下回った。令和5年度は、生産緑地の追加指定について実施し緑地面積の維持に努めていく。	継続	みどり公園課
実績値	27.8	27.5	27.3					
目標値	80	80	90	100		令和6年1月に鴨川の冬鳥観察会を開催し、19名の方が参加された。今後は、参加者が増加するようSNS等を活用し周知活動を強化する。	継続	環境政策課
実績値	40	66	85					
目標値	150	160	170	180		アライグマによる農業被害等への対策（及び発生防止）を目的として、市民に箱わなを貸し出し・設置し、令和5年度は、222頭を駆除した。	継続	生活環境課
実績値	237	215	222					
目標値								
実績値								
目標値								
実績値								

取組状況等	翌年度の方向性	担当課
ナラ枯れした樹木や架線支障木の伐採・剪定、除草等の植栽管理を実施した。埼玉県と協働して用地買収を進めた。	継続	みどり公園課
保全配慮地区における新規保存樹林の指定に取り組んだ。	継続	みどり公園課
令和5年12月に、自然保護を含めた市の取組やサクラソウトラスト地の自然保護活動に関する学習会を開催した。また、同月にサクラソウトラスト地の管理作業及び自然観察会を開催し、サクラソウトラスト地の貴重な自然環境についての説明をした。令和6年1月には、鴨川の冬鳥観察会を実施し、地域に生息している野鳥の観察を通して環境保全に対する啓発を図った。	継続	環境政策課
令和5年12月に、自然保護を含めた市の取組やサクラソウトラスト地の自然保護活動に関する学習会を開催した。また、同月にサクラソウトラスト地の管理作業及び自然観察会を開催し、サクラソウトラスト地の貴重な自然環境についての説明をした。令和6年1月には、鴨川の冬鳥観察会を実施し、地域に生息している野鳥の観察を通して環境保全に対する啓発を図った。	継続	環境政策課
定期的な河川パトロールによる構造物の修繕や堆積土の浚渫等を実施し、河川の水質改善や水辺空間の再生などに努めた。	継続	道路河川課
水利組合や環境保全会と協働し、水田や農業用排水路の藻刈り・浚渫・清掃などの維持管理作業を行った。また、農道修繕、用水路修繕、農閑期には草刈り、野焼きを実施し、用排水路の適切な維持管理による「農」環境の保全を図った。	継続	農政課
アライグマによる農業被害等への対策及び発生防止を目的として、市民に箱わなを貸し出し・設置し、令和5年度は、222頭を駆除した。また、箱わなの台数を10台から20台に増やして対応した。	継続	生活環境課
市民参加型生物調査の実施に向けて2ヵ年の委託業務の予算要求を行い、翌年度からの実施に向け準備をした。	継続	みどり公園課 環境政策課

【施策2】自然とのふれあいの促進

1. 基本情報

施策目標	<p>自然観察会や農業体験といった市民が自然とふれあうことができる機会を創出するとともに、市民の参加を促進できる魅力的な施策の実施に努めます。</p> <p>また、環境活動の支援や環境イベントの共同開催など、市民団体や事業者との協働により、自然とのふれあいを促進します。</p>			
環境分野	自然環境分野			
計画指標	自然環境の住民満足度			
	2019年度実績値	16.5%	➡	2030年度目標値 25%
環境目標	自然との共生			

2. 環境目標に対する評価

<p>自然学習館における体験型イベントを通して、植物や昆虫を身近に感じることで、市民が自然とふれあう機会を設けたことや、サクラソウトラスト地の管理作業及び自然観察会を開催し、貴重な自然環境についての説明を行い、自然環境とふれあうことで生物多様性の重要性について市民に理解を深めてもらう機会を設けることができました。</p> <p>事業者と協働で環境保全活動を実施したことで、事業者に環境保全活動の重要性を理解してもらうとともに事業者間の横のつながりの構築に寄与できました。</p> <p>小学生やその家族を対象にした農業体験教室では、植付けや収穫の実体験を通じて、農業の重要性と環境維持の必要性を学んでもらいました。</p> <p>こうした活動を通じて、市民や事業者に生物多様性や環境保護、農業の重要性を伝え、理解を深めていく試みが行われました。</p> <p>市民開放しているふれあいの森[※]については、相続による土地所有者の事情に伴うものですが、一部契約解除が発生しました。引続き、緑地の所有者に対して奨励金を交付し管理作業を実施することで、緑地の保全に努めてまいります。</p>
--

3. 関連するSDGsの項目



4. 業務指標の取組状況

No.	業務指標	基準年度実績値	方向性 単位
A	自然学習館 [※] におけるイベントの参加率	80	↗ %
B	自然観察会の参加者数（累計） （自然とのふれあい）	39	↗ 人
C	農業体験教室の開催数（作付け・収穫）	8	→ 回/年
D			
E			
F			

5. 実行施策の取組状況

No.	実行施策
①	市民が自然とふれあう機会を増やすため、市民団体や事業者と協働し、学習・体験教室などの体験型環境学習を充実させます。
②	保存樹林の中でも良好な自然環境を形成している箇所を特別緑地 [※] に指定し、「ふれあいの森」の保全に努めます。
③	市民が自然とふれあう機会を増やすため、自然観察会などの体験型環境学習を充実させます。
④	市民がふれあえる自然を守るため、市民団体や事業者が行う自然環境の保全活動を支援します。
⑤	身近な自然に親しんでもらうため、市内に残された貴重な自然を環境学習の場として活用します。
⑥	市民が農とふれあう機会を増やすため、農業体験などの体験型学習を充実させます。
⑦	
⑧	
⑨	
⑩	
⑪	
⑫	

	R3	R4	R5	R6	R7	取組状況等	翌年度の方向性	担当課
目標値	81	98	85	85		自然学習館におけるイベントでの参加率を向上させるため、広報誌やホームページ等でイベントの周知を行い集客に努めた。	継続	みどり公園課
実績値	98.2	95	92					
目標値	133	200	240	280		広報、ホームページへの掲載のほか、環境推進協議会会員団体、地元の事業者団体や大学にも案内を送付し、参加者を募った。	継続	環境政策課
実績値	161	203	245					
目標値	8	8	8	8		農業体験教室（さつまいも、田植え、稲刈り、大根、じゃがいも）の植付け、収穫を市内の小学生と家族により8回実施した。	継続	農政課
実績値	8	8	8					
目標値								
実績値								
目標値								
実績値								
目標値								
実績値								

取組状況等	翌年度の方向性	担当課
自然学習館におけるイベントでは、広報誌やホームページ等でイベントの周知を行い集客に努め、市民団体等から提出された写真や絵画を展示した写真展や絵画展を開催した。その他にも、自然や天体等の観察会を定期的に行い、植物や昆虫等に関する体験型イベントを開催することができた。	継続	みどり公園課
「上尾市自然環境保全と緑化推進に関連する条例施行規則」に基づき、市内各地区の象徴として守ってきた自然の所有者に対して奨励金を交付していたが、地権者の相続に伴い、令和6年3月末をもって「ふれあいの森505」の一部（6,847㎡）が契約解除となった。	継続	みどり公園課
令和5年12月に、自然保護を含めた市の取組やサクラソウトラスト地の環境保全活動に関する学習会を開催した。また、同月にサクラソウトラスト地の管理作業及び自然観察会を開催し、サクラソウトラスト地の貴重な自然環境についての説明をした。令和6年1月には、鴨川の冬鳥観察会を実施し、地域に生息している野鳥の観察を通して環境保全に対する啓発を図った。	継続	環境政策課
上尾ものづくり協同組合や領工会、環境保護団体と協働して環境保全活動を実施した。また、上尾駅自由通路及び中学校において、環境パネル展示を実施し、環境保護団体や事業者の環境活動をPRした。	継続	環境政策課
令和5年12月に、サクラソウトラスト地の管理作業及び自然観察会を開催した。より多くの方に参加いただけるように、広報誌、ホームページ以外にも、イベント案内希望者や地元事業者団体などにも案内を出し、周知した。	継続	環境政策課
農業体験教室（さつまいも、田植え、稲刈り、大根、じゃがいも）の植付け、収穫を市内の小学生と家族により8回実施した。田植え、稲刈り教室では水田に生息する生き物の調査を同時に行い農業の大切さと環境維持の必要性を実体験し学習した。	継続	農政課

【施策3】緑地の保全・創出

1. 基本情報

施策目標	身近な緑は、市民に安らぎと憩いの場を提供するとともに、ヒートアイランド現象 [※] への対策としても有効です。市内に残された貴重な緑地を保全するため、特別緑地保全地区の指定や緑の公有地化を推進するとともに、民間の緑地・樹木の維持管理に協力します。 また、計画的な公園の整備や緑化指導により、地域の緑の創出を図ります。			
環境分野	自然環境分野			
計画指標	自然環境の住民満足度			
	2019年度実績値	16.5%	➡	2030年度目標値 25%
環境目標	自然との共生			

2. 環境目標に対する評価

<p>「ふるさと緑の景観地」の公有地化に、森林環境譲与税基金を活用することで財政面からの支援を行ったほか、特定工場の敷地内変更等の相談に対する助言を通して緑地の保全に努めました。また、同基金の積立額については、令和5年度も目標値を上回ったことから、今後も緑地保全等に対して効果的に活用します。</p> <p>協定締結公園数、樹木管理公園数は目標値を達成しており、今後も市民と協働して適切な公園の維持管理を図っていくため、公園管理協定の締結に向けて募集を継続します。</p> <p>生産緑地地区については、市が平成4年に生産緑地地区を指定して以来、初めての追加指定の募集を令和5年度に開始したことにより、緑地面積や緑地率の維持向上につながることが期待されます。</p> <p>地域農業の活性化については、「あげお朝市・夕市」、「あげお軽トラ市」に加え、令和5年度は「トマト市」を3年ぶりに開催できたことや市内の農家を紹介するトマトマップを作成する等、地産地消に向けた取組を推進しました。</p>
--

3. 関連するSDGsの項目



4. 業務指標の取組状況

No.	業務指標	基準年度実績値	方向性 単位
A	緑地面積（再掲）	1,264.22	↗ ha
B	緑地率（再掲）	27.8	↗ %
C	森林環境譲与税基金 [※] 積立額	8,702	↗ 千円
D	協定締結公園 [※] 数	63	↗ 箇所
E	樹木管理公園 [※] 数	132	→ 箇所
F			

5. 実行施策の取組状況


No.	実行施策
①	市内の緑地や動植物を保護するため、特別緑地保全地区の指定や「ふるさと緑の景観地」の保全に努めます。【施策(1)と同じ】
②	地域で親しまれている雑木林や貴重な樹木などを保全するため、保存樹林・保存樹木の保全に努めます。【施策(1)と同じ】
③	ふれあいの森等の緑地を維持管理するため、緑の募金を主体とした「みどりの基金 [※] 」の適切な運用に努めます。
④	森林環境譲与税基金の適切な運用に努めます。
⑤	身近な自然や公園を維持管理するため、市民や事業者との協働による緑のパートナーシップ制度 [※] の適切な運用に努めます。
⑥	「上尾市開発行為における公園および緑地の設置に関する基準」に基づき、事業者が開発行為を行う際には、開発区域の緑化を指導します。
⑦	まちの緑を維持するため、公園の樹木などを適切に管理します。
⑧	市内の緑の状況を把握し、今後の施策に活かすため、必要に応じて「みどりの実態調査」を行います。
⑨	「工場立地法」に基づき、特定工場の緑地率の向上を目指します。
⑩	市街地に残る農地や生産緑地を貴重な緑の空間として位置づけ、その保全を図ります。
⑪	都市計画道路の新設・改築の際には、街路樹等緑地空間の整備を検討するなど、道路環境の整備・管理に取り組みます。
⑫	地域農業を活性化させるため、直売施設の充実や「あげお朝市」に対する支援や地場産品の学校給食への活用など地産地消を促進します。

	R3	R4	R5	R6	R7	取組状況等	翌年度の方向性	担当課
目標値	1,264.22	1,264.22	1,316.04	1,316.04		「ふるさとの緑の景観地」における土地の公有地化や特定生産緑地制度の周知等で緑地面積の維持を図ったが、生産緑地やふれあいの森の解除が発生したことにより緑地面積の目標値を下回った。令和5年度は、生産緑地の追加指定について実施し緑地面積の維持に努めていく。	継続	みどり公園課
実績値	1,264.22	1,252.31	1,244.43					
目標値	27.8	27.8	28.9	28.9		市内各地区の象徴として守ってきた保存樹木や特別緑地の所有者に対して奨励金を交付したが、生産緑地やふれあいの森の解除が発生したことにより、緑地率の目標値を下回った。令和5年度は、生産緑地の追加指定について実施し緑地面積の維持に努めていく。	継続	みどり公園課
実績値	27.8	27.5	27.3					
目標値	18,492	18,492	24,041	24,074		CO2排出量相殺事業、ふるさとの緑の景観地の用地購入費に森林環境譲与税基金を充当した。	継続	みどり公園課
実績値	18,639	24,049	24,074					
目標値	64	64	64	64		公園管理協定締結団体等を募集した。	継続	みどり公園課
実績値	64	64	64					
目標値	132	145	145	145		指定管理者による適切な維持管理を行った。	継続	みどり公園課
実績値	145	145	145					
目標値								
実績値								

取組状況等	翌年度の方向性	担当課
ナラ枯れした樹木や架線支障木の伐採・剪定、除草等の植栽管理を実施した。埼玉県と協働して用地買収を進めた。	継続	みどり公園課
保全配慮地区における新規保存樹林の指定に取り組んだ。	継続	みどり公園課
庁内での職場募金及び法人、団体又は個人から寄附を頂き、上尾の優れた自然を取得し保全する活動に充てるため、みどりの基金に積立を行った。	継続	みどり公園課
CO2排出量相殺事業、ふるさとの緑の景観地の用地購入費等に森林環境譲与税基金を充当した。	継続	みどり公園課
R5年度末現在で、43団体63公園において緑のパートナーシップ制度（公園管理協定）により公園の管理作業が実施された。また、新たに、公園管理協定を締結できる団体等を市ホームページで募集したが、R5年度は応募がなかった。	継続	みどり公園課
「上尾市開発行為における公園および緑地の設置に関する基準」に基づき、開発区域の緑化指導を実施した。	継続	みどり公園課
長年、市内の都市公園の管理業務を行っており、樹木管理について豊富な知識と技能を有した指定管理者により、公園の樹木などを適切に管理した。	継続	みどり公園課
第2次上尾市緑の基本計画の計画期間中であるため、実施していない。	継続	みどり公園課
特定工場において、敷地内の変更等の相談があった際には緑地面積並びに緑地率の向上を図るよう助言した。	継続	商工課
令和4年度に特定生産緑地制度が開始され、約90%の指定同意を得たことで、緑地率の維持につながった。令和5年度より、緑地率を増やしていくために、生産緑地の追加指定の募集を開始した。また、生産緑地の管理手法として、市民農園の開設がしやすくなったことをホームページ等で周知した。	継続	みどり公園課
都市計画道路内の街路樹の定期的な剪定及び既存の緑地スペースの管理を適切に行った。	継続	道路河川課
令和5年度は「あげお朝市・夕市」を14回、「あげお軽トラ市」を10回開催し、3年ぶりに「トマト市」を6回開催した。その他市内イベントにも参加し、地産地消に向けた地元野菜PR活動を行った。また、学校保健課と連携し、学校給食納入を希望する農家とのマッチングを行った。	継続	農政課

【施策4】水辺環境の保全・整備

1. 基本情報

施策目標	<p>水辺環境に地域の方が関心を持ち、地域の顔となる身近な水辺環境を再生・創造するため、河川や池、農業用排水路などの水辺環境の維持管理を行います。</p> <p>また、自然体験等の環境教育の場として位置付けるとともに、地域の活性化と積極的な水辺環境保全活動が得られるよう推進します。</p>			
環境分野	自然環境分野			
計画指標	自然環境の住民満足度			
	2019年度実績値	16.5%		2030年度目標値 25%
環境目標	自然との共生			

2. 環境目標に対する評価

<p>アメリカザリガニやセイタカアワダチソウといった外来種の駆除等の自然再生活動を市民と協働で継続したことで、絶滅危惧種であるミスアオイの再生やカイツブリの継続的な営巣につながりました。</p> <p>また、こうした活動を通して市民に対しての生物多様性の啓発にもつながっていると云えます。</p> <p>準用河川・上尾中堀川の護岸整備においては、水辺に親しめる護岸を目指し、引き続き整備してまいります。</p> <p>水路等パトロールや河川パトロールについては、引き続き同様の頻度で実施し、堤防や護岸等の構造物の適切な修繕や堆積土の浚渫することで、河川の水質改善を図っています。</p> <p>不法投棄については、市民からの通報もあり令和4年度よりも件数が増加しました。全てを未然に防ぐことは困難な状況ではありますが、不法投棄が発覚した際には適切に対処してまいります。</p> <p>水田や農業用排水路の維持管理については、水利組合や環境保全会の協力を得て適切に実施されました。</p>

3. 関連するSDGsの項目



4. 業務指標の取組状況

No.	業務指標	基準年度実績値	方向性 単位
A	主要河川パトロール回数	36	→ 回/年
B	水路等パトロール回数	12	→ 回/年
C	河川における不法投棄*の件数	8	→ 件/年
D			
E			
F			

5. 実行施策の取組状況

No.	実行施策
①	「かいぼり」実施による水質維持や外来種駆除に努めます。
②	生物が生息しやすい水辺環境を作るため、河川の水質改善や水辺空間の再生などに努めます。【施策(1)と同じ】
③	水辺に親しめるような護岸づくりについて整備方針を立て、段階的に改善・整備します。
④	堤防や護岸等の損傷箇所の発見のための河川パトロール等を実施します。
⑤	不法投棄の監視のため、河川パトロール等を実施します。
⑥	潤いとやすらぎのある景観や環境教育の場を保つため、水田や農業用排水路といった水辺環境を保全・管理します。
⑦	
⑧	
⑨	
⑩	
⑪	
⑫	

	R3	R4	R5	R6	R7	取組状況等	翌年度の方向性	担当課
目標値	36	36	36	36		芝川・鴨川・原市沼川周辺の河川パトロールを月1回実施し、維持管理上必要な構造物の破損、土砂の堆積状況の確認を実施した。	継続	道路河川課
実績値	36	36	36					
目標値	12	12	12	12		河川等の不法投棄に関するパトロールを月1回実施した。	継続	道路河川課
実績値	12	12	12					
目標値	3	3	3	3		現地調査などの際、パトロールとして併せて実施した。市民から不法投棄の通報により、件数が増加した。	継続	建設管理課
実績値	4	0	3					
目標値								
実績値								
目標値								
実績値								
目標値								
実績値								

取組状況等	翌年度の方向性	担当課
自然再生活動を実施することで、水質の回復、カイツブリの営巣、絶滅危惧種ミズアオイの増加などを確認した。市民参加型外来種駆除イベント、湿地再生イベントには300人以上の市民が参加した。取り組みと成果を報告書としてまとめて、公表した。第42回緑の都市賞（緑のまちづくり部門）において、都市緑化機構会長賞を受賞した（R4）。	継続	みどり公園課
定期的な河川パトロールによる構造物の修繕や堆積土の浚渫等を実施し、河川の水質改善や水辺空間の再生などに努めた。	継続	道路河川課
（準）上尾中堀川において、水辺環境を保全し、生き物の生息空間づくりを視野に入れた多自然型護岸の整備を実施した。	継続	道路河川課
維持管理上必要な構造物の破損、土砂の堆積状況の確認をするため、芝川・鴨川・原市沼川周辺の河川パトロールを月1回実施した。	継続	道路河川課
河川等の不法投棄に関するパトロールを月1回実施した。	継続	道路河川課
水利組合や環境保全会と協働し、水田や農業用排水路の藻刈り・浚渫・清掃などの維持管理作業を行った。また、農道修繕、用水路修繕、農閑期には草刈り、野焼きを実施し、用排水路の適切な維持管理を図った。	継続	農政課

【コラム】市民協働で進めるネイチャーポジティブ 上尾丸山公園水辺再生事業

上尾丸山公園の大池では、2019年に「市民協働のかいぼり」を行ったことをきっかけとして、地域本来の自然を再生することを目指して、市民ボランティアの皆さんと一緒に様々な取り組みを続けています。



外来種の駆除



湿地の再生

市民参加型のイベントを開催し、アメリカザリガニなどの外来種の駆除や多様な生物のすみかとなる浅場や湿地の整備を行っています。

その結果、埋土種子から地域に由来した在来の水草や湿生植物が再生し、エコトーンが創出されました。また、再生した水草の陰でカイツブリが営巣し、子育てをするようになりました。



エコトーンの創出



カイツブリの親子

令和5年度からは公園の池を多様な生物のすみかとなる湿地に再生しています。市民参加型イベントを開催し、池底のシートをみんなで協力してはがしています。昭和の時代に整備した人工的な池を、生物多様性が豊かな素敵な湿地にリノベーションして、ネイチャーポジティブを実践しています。

このような取り組みを継続して行うことで、上尾丸山公園の生物多様性の回復と大池の水質回復を進め、地域社会の活性化につながっています。



池底のシートはがしイベント

2. 都市・生活環境分野

計画指標 (ゴール指標)		都市・生活環境の住民満足度					単位:%
2019年度 実績値		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2030年度 目標値
29.9	目標値	-	-	-	32.2	-	35.0
	実績値	-	-	-			

※環境基本計画策定(改訂)時の市民アンケートに基づくため、次回アンケート時(2024年度)に確認する。



【計画指標に対する評価】

水質汚濁の防止については、排水基準に不適合であった事業場に対し、指導を実施しました。順次、改善を確認し、必要に応じて再指導等を実施する必要があります。

公園の整備については、ワークショップの開催やアンケートを実施し地域住民の意見を取り入れながら事業を進めました。また、公園の維持管理については、自治会等と協定を結び、市民の協力を得ながら協働して実施しました。

農地の保全・活用については、学校給食において、上尾市産の小松菜や枝豆を粉末に加工し食材として取り入れた他、収穫時期に合わせて上尾市産米を活用し、地産地消に取り組みました。今後も地産地消の取組を継続し、農地の保全・活用の一助となれるよう努めます。

環境美化の推進については、業務指標の目標値を達成できませんでした。コロナ禍後の人流の回復により、ごみのポイ捨てが増加したと推察されるため、ごみのポイ捨て防止の啓発活動に取り組む必要があります。また、ごみ出しルールや分別方法の周知啓発についても実施し、環境美化の推進を図ります。

景観の保全・整備については、違法駐輪に対し、警告札の貼付けや撤去に継続して取り組んだことにより、撤去件数の目標値を達成しました。歩道の安全面の向上にも寄与するため、今後も継続して実施してまいります。

【市民・事業所の活動方針】

- ・エコドライブ[※]やアイドリングストップ[※]の実践や、市内循環バスぐるっとくん等公共交通機関や自転車を利用するなど排気ガス抑制に努める。
- ・良好な景観保全のため、地域の清掃活動へ参加する。参加した内容をSNSを通じて、周囲に啓発する。
- ・市民農園の開設や、市民農園の利用など、農地保全に協力する。

【施策5】大気汚染の防止

1. 基本情報

施策目標	大気汚染の原因となる揮発性有機化合物（VOC） *や浮遊粒子状物質*の発生を抑制するため、市内の大気の状態を継続して把握するとともに、市民・事業者への意識啓発に努めます。			
環境分野	都市・生活環境			
計画指標	都市・生活環境の住民満足度			
	2019年度実績値	29.9%	➡	2030年度目標値 35%
環境目標	公害の防止			

2. 環境目標に対する評価

<p>指定ばい煙発生施設の立入調査を実施したほか、市内の大気環境を把握するため観測所で常時測定を行い、ともに基準内であることを確認しました。また、県と大気関係の調査業務委託内容等について、事例検討を行い連携を深めました。</p> <p>アイドリングストップやエコドライブについては、令和5年度一定以上の駐車場を設置する全ての事業者に対して、アイドリングストップについて周知するよう指導することができました。エコドライブについては、「くらしレシビ」による啓発を引続き実施するほか、今後は電気自動車等の購入者に対して購入費用の補助を行うなど、ハード面の整備等の観点から啓発についても検討します。</p> <p>ぐるっとくんの年間利用者数については、令和4年度の実績値は上回ったものの、目標値を僅かに下回りました。利用者の利便性の向上を図るため、ぐるっとくんの運行の見直しについて進めてまいります。</p>
--

3. 関連するSDGsの項目



4. 業務指標の取組状況

No.	業務指標	基準年度実績値	方向性 単位
A	立入事業所件数	1	→ 件/年
B	アイドリングストップ指導率	100	→ %
C	ぐるっとくんの年間利用者数	480,306	↗ 人/年
D			
E			
F			

5. 実行施策の取組状況

No.	実行施策
①	市内の大気環境を把握するため、市内の観測所で定期的に大気の観測を行うほか、迅速な情報収集や効果的な対策のため県との連携を強化します。
②	揮発性有機化合物の排出を抑制するため、大気汚染の防止に関する意識啓発を行い、自主的な取組を促進します。また、PRTR 制度*について広報に努めます。
③	工場・事業場等による大気汚染を防止するため、ばい煙発生施設やボイラー等を設置している事業者に対し、定期的な立入検査とともに、必要な指導を行います。
④	一定以上の駐車場を設置する事業者に、アイドリングストップの表示等について指導を行います。
⑤	自動車からの排出ガスを抑制するため、市民や事業者エコドライブやアイドリングストップの実践を促します。
⑥	自動車からのCO2やその他の排出ガスを抑制するため、市内循環バスを中心とする公共交通機関の充実や利便性の向上を図り、市民や事業者公共交通機関利用の実践を促します。
⑦	
⑧	
⑨	
⑩	
⑪	
⑫	

	R3	R4	R5	R6	R7	取組状況等	翌年度の方向性	担当課
目標値	1	1	1	1		指定ばい煙発生施設（1箇所）に対して、立入調査及び測定を実施し、基準に適合していることを確認した。	継続	生活環境課
実績値	1	1	1					
目標値	100	100	100	100		開発行為等に伴い、20台以上または駐車面積500㎡以上の駐車場を新たに設置する者に対して、アイドリングストップの看板設置等により周知するよう指導した。（32件）	継続	生活環境課
実績値	100	100	100					
目標値	368,400	406,700	448,000	465,000		運行時刻、路線ルート情報、バスロケーションシステムについて、上尾市HP、時刻表、マップに記載し、市役所、支所・出張所、一部公共施設等にて配布。市内転入者に公共交通マップを配布。運転免許証自主返納者（75歳以上対象）に市内循環バス「ぐるっとくん」の乗車回数券、時刻表、市内循環バスのマップを配布。また、11月に開催された「第48回あげお産業祭」に「ぐるっとくん」のバス車両を展示、乗車体験を実施した。	継続	交通防犯課
実績値	382,168	420,195	444,371					
目標値								
実績値								
目標値								
実績値								
目標値								
実績値								

取組状況等	翌年度の方向性	担当課
市内の観測所の測定の結果、基準内であったことを確認した。 県（大気環境課・中央環境管理事務所）との間で緊急連絡先を更新し、また事例検討を行い連携を強化した。	継続	生活環境課
揮発性有機化合物及びPRTR制度については、県の協力依頼のもと実施する事業であるが、協力依頼はなかった。	継続	生活環境課
野焼き [※] パトロールを実施したほか、指定ばい煙発生施設（1箇所）に対して、立入調査及び測定をし、基準に適合していることを確認した。	継続	生活環境課
開発行為等に伴い、20台以上または駐車面積500㎡以上の駐車場を新たに設置する者に対して、アイドリングストップの看板設置等により周知するよう指導した。（32件）	継続	生活環境課
啓発資料「くらしレシビ」において、エコドライブの啓発を行った。	継続	環境政策課
運行時刻、路線ルート情報、バスロケーションシステムについて、上尾市HP、時刻表、マップに記載し、市役所、支所・出張所、一部公共施設等にて配布。市内転入者に公共交通マップを配布。運転免許証自主返納者（75歳以上対象）に市内循環バス「ぐるっとくん」の乗車回数券、時刻表、市内循環バスのマップを配布。また、11月に開催された「第48回あげお産業祭」に「ぐるっとくん」のバス車両を展示、乗車体験を実施した。	継続	交通防犯課

【施策6】水質汚濁の防止

1. 基本情報

施策目標	市内の河川や地下水の水質汚濁の状況を継続して把握するとともに、市民・事業者への意識啓発を実施するなど、水質浄化対策を推進します。			
環境分野	都市・生活環境			
計画指標	都市・生活環境の住民満足度			
	2019年度実績値	29.9%	➡	2030年度目標値 35%
環境目標	公害の防止			

2. 環境目標に対する評価

市内を流れる河川や下水路の水質調査を実施し、全ての調査地点で健康項目の環境基準に適合していることを確認できました。

工場・事業場の排水基準の適合率については、目標値を達成することができませんでした。不適合となった事業所に対しては、再指導を行い、目標値を達成できるよう改善に努めます。

単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換件数についても、県等と共同で合併処理浄化槽の普及啓発に取り組んだものの、目標値を達成することができませんでした。周知の方法を見直すなど、転換件数の増加に向けた対策を検討します。

公共下水道の普及率については、工事の進捗状況により一部工事を次年度へ繰り越したため、目標値を達成することができませんでした。適切な工事の施工管理に実施し、公共下水道の整備に遅れが生じることのないよう努めます。

3. 関連するSDGsの項目



4. 業務指標の取組状況

No.	業務指標	基準年度実績値	方向性 単位
A	河川調査地点数	17	→ 箇所/年
B	工場・事業場の排水基準の適合率	93	↗ %
C	単独処理浄化槽 [※] から合併処理浄化槽 [※] への転換件数	19	→ 件/年
D	公共下水道の普及率	83.2	↗ %
E			
F			

5. 実行施策の取組状況

No.	実行施策
①	家庭の生活雑排水による環境負荷 [※] を低減するため、市民に生活排水に関する配慮事項を具体的に示し、周知します。
②	河川や地下水の水質状況を把握するため、定期的な水質調査を行い、汚染確認時には適切な指導と対策を実施します。
③	工場・事業場等による水質汚濁を防止するため、定期的な立入検査とともに、必要な指導を行います。
④	生活排水を適正に処理し、河川等の水質汚濁を防止するため、単独処理浄化槽から合併処理浄化槽へ転換する市民に対し補助します。
⑤	河川の水質浄化を行うため、流域の自治体と組織した連絡協議会に参加し、効果的な対策を広域的に取り組みます。
⑥	河川等の公共用水域の水質保全のため、公共下水道の整備を計画的に進めます。
⑦	
⑧	
⑨	
⑩	
⑪	
⑫	

	R3	R4	R5	R6	R7	取組状況等	翌年度の方向性	担当課
目標値	17	17	17	17		市内を流れる河川・下水路（17箇所）で水質調査を実施し、健康項目の環境基準に適合していることを確認した。	継続	生活環境課
実績値	17	17	17					
目標値	89	90	93	90		水質汚濁防止法及び埼玉県生活環境保全条例により、特定施設・指定施設を有する50事業場に立入調査をした。不適合の9事業場に指導を実施し、改善の確認（6事業場）と再指導（3事業場）を行った。排水基準を満たすことができるよう再指導となった3事業場についての指導を継続していく。	継続	生活環境課
実績値	81	95	82					
目標値	18	20	20	20		単独浄化槽及びびくみ取り便槽から合併処理浄化槽への転換工事に関する補助金の申請は14件あり、補助金の交付を行った。HPによる周知の他に、地区の回覧や個別通知等により、申請者の掘り起こしを図る。	継続	生活環境課
実績値	17	15	14					
目標値	84.2	85.4	85.6	86.1		河川等の公共用水域の水質保全のため、事業計画区域の公共下水道の整備を行った。（現地踏査・管路施設の設計・工事の発注）（対象地域：中新井、堤崎、小敷谷、大谷第二、壺丁目、壺丁目南、地頭方）	継続	下水道施設課
実績値	84	85.1	85.5					
目標値								
実績値								
目標値								
実績値								

取組状況等	翌年度の方向性	担当課
生活雑排水を適切に処理し排水するよう、県（水環境課）や他市と共同で合併処理浄化槽の普及を行ったほか、浄化槽の適切な維持管理に関する周知を県（中央環境管理事務所）と共同で行った。	継続	生活環境課
市内を流れる河川・下水路のうち17箇所水質調査を実施し、健康項目の環境基準に適合していることを確認した。また、県の測定計画に協力し、市内地下水の2箇所概況調査、2箇所継続監視調査を実施した。	継続	生活環境課
水質汚濁防止法及び埼玉県生活環境保全条例により、特定施設・指定施設を有する50事業場に立入調査を実施し、不適合の9事業場に指導し、改善の確認（6事業場）と再指導（3事業場）を行った。	継続	生活環境課
単独浄化槽及びびくみ取り便槽から合併処理浄化槽への転換工事に関する補助金の申請は16件あり、2件取り下げがあったため、14件の転換及び補助金の交付を行った。	継続	生活環境課 下水道施設課
協議会が未開催のため、取組なし。	継続	下水道施設課 建設管理課
河川等の公共用水域の水質保全のため、事業計画区域の公共下水道の整備を行った。（現地踏査・管路施設の設計・工事の発注）（対象地域：中新井、堤崎、小敷谷、大谷第二、壺丁目、壺丁目南、地頭方）	継続	下水道施設課

【施策7】騒音・振動の防止

1. 基本情報

施策目標	騒音・振動の被害を防止するため、市内の道路交通騒音・振動の状況を継続して把握するとともに、市民・事業者に対し、騒音・振動の発生抑制について啓発・指導を行います。			
環境分野	都市・生活環境			
計画指標	都市・生活環境の住民満足度			
	2019年度実績値	29.9%	➡	2030年度目標値 35%
環境目標	公害の防止			

2. 環境目標に対する評価

<p>道路の騒音・振動については、測定分析を行った結果、要請限度の達成率が99.9%となったため、昨年度に引続き目標値を達成することができた。一方で、市民生活や事業活動に伴う騒音・振動の相談件数については、昨年度から横ばいで推移しているため、引続き、問い合わせに対してきめ細かなヒアリングを行い、騒音・振動の原因となっている者へ適切な指導・助言を実施します。</p> <p>上尾道路沿道堤崎西部地区においては、工業系用途によるあらたな土地利用が期待されています。周辺環境に配慮した適正な土地利用を図り、建築物等に適切な制限をかけるため、当該地区についての地区計画の検討を進めることで、自然と調和した土地利用を目指すことが重要です。</p>

3. 関連するSDGsの項目



4. 業務指標の取組状況

No.	業務指標	基準年度実績値	方向性 単位
A	道路騒音・振動にかかる要請限度*の達成率	95.8	→ %
B	工業地域及び準工業地域における地区計画**策定数（累計）	3	↗ 件
C			
D			
E			
F			

5. 実行施策の取組状況

No.	実行施策
①	市内の道路環境の改善を図るため、騒音・振動測定により道路交通騒音や振動の状況を把握し、補修の必要がある場合には道路管理者に要請します。
②	市民の快適な生活環境を維持するため、市民・事業者に対し、騒音・振動の発生抑制について啓発・指導を行います。
③	住工混在*による騒音・振動の問題を未然に防ぐため、土地利用の適正化を図ります。
④	
⑤	
⑥	
⑦	
⑧	
⑨	
⑩	
⑪	
⑫	

【施策8】その他の公害の防止

1. 基本情報

施策目標	悪臭、地盤沈下、地下水・土壌汚染等の状況を継続して把握するとともに、市民・事業者に対し、公害防止に向けた啓発・指導を行います。			
環境分野	都市・生活環境			
計画指標	都市・生活環境の住民満足度			
	2019年度実績値	29.9%	➡	2030年度目標値 35%
環境目標	公害の防止			

2. 環境目標に対する評価

悪臭に関する相談があった際には、速やかに現地調査を実施し、必要に応じて指導を行いました。悪臭に関する苦情の件数は増加傾向であり、増加している原因は不明ですが、引続き適切に対処し、目標値の達成を目指します。

野焼きパトロール回数については、個別の苦情対応による出動が例年よりも増加したため、目標値を達成できませんでした。今後は、個別の苦情対応時に併せてパトロールの実施を行う等、運用の見直しを検討します。

一部の地区において、県と協力して井戸水の調査を実施し、基準に適合していることを確認し周辺住民に周知を行いました。今後も県と協働して事業を進めてまいります。

アスベストによる健康被害を防止するため、アスベストの飛散防止対策と適正な処理を指導し、立入調査を実施した3件の解体現場全てでアスベストの飛散がないことを確認しました。また、アスベストが使用されている可能性がある中規模の建築物の所有者にアンケートを行い、アスベスト台帳の整理をし、アスベストが使用されている建築物の把握に努めました。アンケートの郵送時や市ホームページ及び広報を活用して、アスベストの分析調査費用についての補助制度を周知することで、アスベストが使用されている建築物の把握の促進につなげます。

3. 関連するSDGsの項目



4. 業務指標の取組状況

No.	業務指標	基準年度実績値	方向性 単位
A	悪臭発生源への指導実施率	100	→ %
B	ダイオキシン類 [※] 等の環境基準の達成状況（大気）	100	→ %
C	野焼きパトロール回数	6	→ 回/年
D			
E			
F			

5. 実行施策の取組状況

No.	実行施策
①	上尾市役所での空間放射線を測定し、結果を広く公表します。市内の農作物の食品放射能を測定し、事業者にお知らせします。
②	基準値を超える放射性物質 [※] が検出された場合は、除染 [※] 、食材の使用停止および農作物の販売停止などの措置を実施します。
③	市内の工場・事業場等からの悪臭を防止するため、発生状況を把握し、発生源への指導を実施します。
④	地盤沈下を防止するため、県とともに継続的な調査および監視を行います。
⑤	河川や地下水の水質状況を把握するため、定期的な水質調査を行い、汚染確認時には適切な指導と対策を実施します。【施策(6)と同じ】
⑥	工場・事業場等による土壌汚染を防止するため、事業者に対し、土壌汚染防止に関する意識啓発や指導を行います。
⑦	市内のダイオキシン類の汚染実態を把握するため、大気および河川のダイオキシン類の調査を実施します。
⑧	ばい煙・悪臭・ダイオキシン類の排出抑制を図るため、野焼きの禁止、もしくは自粛するよう指導します。
⑨	アスベストによる健康被害を防止するため、事業者が建築物の解体工事等を実施する際には、アスベストの飛散防止の措置を講じ、適正な廃棄物処理を実施するよう指導します。
⑩	アスベストによる健康被害を防止するため、アスベストを使用している民間建築物を把握します。
⑪	
⑫	

	R3	R4	R5	R6	R7	取組状況等	翌年度の方向性	担当課
目標値	100	100	100	100		悪臭に関する相談を受け付けた際は、速やかに現地調査し、必要に応じて指導した。(77件)	継続	生活環境課
実績値	100	100	100					
目標値	100	100	100	100		市内4箇所で大気と河川水のダイオキシン類の調査を行った。なお、すべてにおいて環境基準を達成し、環境基準の達成率は100%となった。	継続	生活環境課
実績値	100	100	100					
目標値	6	7	7	6		小型焼却炉を保有する事業所等に対して、野焼きパトロールを実施した。個別の苦情対応による出勤が増加したため、実施回数が目標値を下回った。今後は、個別の苦情対応時に併せて行う等、パトロールの実施に努める。	継続	生活環境課
実績値	8	7	4					
目標値								
実績値								
目標値								
実績値								

取組状況等	翌年度の方向性	担当課
上尾市役所で空間放射線量の測定を毎月実施し、基準内であったことをホームページで公表した。なお、農作物の食品放射能の測定を利用する方がいなかったため、測定の実施はなかった。	継続	生活環境課
農作物の食品放射能の測定がなかったため、販売停止などの措置はなかった。	継続	生活環境課
悪臭に関する相談を受付し、速やかに現地調査し、必要に応じて指導・助言した。(77件)	継続	生活環境課
地盤沈下の注意報等の発令に伴い、県の協力依頼のもとに調査・監視を行うものであるが、協力依頼はなかった。	継続	生活環境課
市内を流れる河川・下水路のうち17箇所で水質調査を実施し、健康項目の環境基準に適合していることを確認した。また、県の測定計画に協力し、市内地下水の2箇所で概況調査、2箇所で継続監視調査を実施した。	継続	生活環境課
土壌汚染防止法の意識啓発や指導は、県の協力依頼のもとに実施するものである。中分・領家・藤波の各地区の一部において、県に協力して、井戸水の調査と住民周知を行った。	継続	生活環境課
市内4箇所で大気と河川水のダイオキシン類の調査を行った。また、全てにおいて環境基準を達成し、環境基準の達成率は100%となった。	継続	生活環境課
ばい煙発生施設(1箇所)に対して、立入調査及び測定を実施し、基準に適合していることを確認した。小型焼却炉を保有する事業所等に対して、野焼きパトロールを実施した(4回)。	継続	生活環境課
国及び県のマニュアルに沿って、アスベストの飛散防止対策と適正な廃棄物の処理を指導した。また、特定建築材料が使用されている建築物の解体について、事前に立入調査を実施し、アスベストの飛散がなかったことを確認した。(3件)	継続	生活環境課
中規模(500㎡から1000㎡)の民間建築物で吹付アスベストが使用されている可能性がある建築物の所有者にアンケートを行うためのアスベスト台帳の更新を図った。また、アスベストの分析調査費用の補助について、市ホームページ及び広報あげおにより情報提供を行った。	継続	建築安全課

【施策9】公園の整備

1. 基本情報

施策目標	市民が身近に親しめる公園を整備し、既存公園の改修や協働による維持管理を行います。			
環境分野	都市・生活環境			
計画指標	都市・生活環境の住民満足度			
	2019年度実績値	29.9%	➡	2030年度目標値 35%
環境目標	快適環境の構築			

2. 環境目標に対する評価

<p>小泉土地区画整理事業で確保した用地を活用し、寺東公園として供用を開始しました。</p> <p>寺東公園の整備では地域住民とのワークショップ、今泉のこぶし公園の再整備では地域住民へのアンケートを実施し、市民と協働した公園の整備が実施できています。</p> <p>公園の維持管理については、「上尾市公園施設長寿命化計画」や「上尾市公園施設維持管理更新計画」に基づき、市や指定管理者による日常点検を随時実施しており、適切に施設の修繕や更新を行っています。また、日常点検の結果により、重要性や緊急性が高いと判断した場合は、施設の更新や修繕を計画よりも早めて実施する等、柔軟に対処してまいります。</p>
--

3. 関連するSDGsの項目



4. 業務指標の取組状況

No.	業務指標	基準年度実績値	方向性 単位
A	都市公園の面積	93.86	↗ ha
B	市民1人当たりの都市公園面積	4.1	↗ ㎡
C	可住地面積当たりの公園面積の割合	2.1	→ %
D	協定締結公園数（再掲）	63	↗ 箇所
E	改修を行った公園箇所数	9	→ 箇所
F			

5. 実行施策の取組状況

No.	実行施策
①	市民の身近な憩いの場を増やすため、土地区画整理事業で確保した用地を新たな公園として整備します。
②	市民のニーズにあった公園を整備するため、設計から維持管理まで地域住民の参加を呼びかけます。
③	身近な自然や公園を維持管理するため、市民や事業者との協働による緑のパートナーシップ制度の適切な運用に努めます。【施策(3)と同じ】
④	身近で自然とふれあい、学べる場を守るため、公園の維持管理に努めます。
⑤	
⑥	
⑦	
⑧	
⑨	
⑩	
⑪	
⑫	

【施策10】農地の保全・活用

1. 基本情報

施策目標	作物の生産や良好な景観の形成、生物の生息・生育といった多面的な役割を担う農地を保全するため、市民農園の利用を促進するとともに、環境に配慮した自然農法を奨励します。			
環境分野	都市・生活環境			
計画指標	都市・生活環境の住民満足度			
	2019年度実績値	29.9%	➡	2030年度目標値 35%
環境目標	快適環境の構築			

2. 環境目標に対する評価

市民農園利用者数については、利用者数の目標値を達成しており、市民農園の利用率も高いことから、市民に農作業に親しんでもらうため、事業を継続して実施します。

新規市民農園の開設数については、生産緑地の管理手法の一つとして市民農園の開設を周知したり、随時相談を受付けたことにより、令和5年度は2園新規開設することができました。

全農地に占める遊休農地面積の割合については、日頃から農地パトロール等を通して、農地の適切な管理について啓発してきた結果と言えます。

また、農業者からの相談を受けて、1法人が新規就農し、1名が収納研修を修了したことは、農地保全の観点から評価できます。

学校給食における上尾市産米使用回数については、収穫時期に合わせて全校で4回使用しました。上尾市産米については、収穫量の関係から、使用回数をこれ以上増加させることは難しいことから、上尾市産の小松菜や枝豆を米の代わりに給食に取り入れることで、地産地消の取組を推進しています。

3. 関連するSDGsの項目



4. 業務指標の取組状況

No.	業務指標	基準年度実績値	方向性 単位
A	市民農園利用者数	277	→ 人/年
B	新規市民農園開設数（累計）	-	↗ 箇所
C	農業従事者1人当たりの経営耕地面積	0.33	→ ha
D	全農地に占める遊休農地面積の割合	18.1	→ %
E	学校給食における上尾市産米使用回数	3	→ 回/年
F			

5. 実行施策の取組状況

No.	実行施策
①	都市における農地を保全するため、市民農園の市民への利用促進を図ります。
②	都市における農地を保全するため、農地所有者への市民農園の開設について周知を行います。
③	環境負荷の軽減に配慮した持続的な農業を進めるため、減農薬農法*や有機農法*などの指導や補助を行います。
④	農地の多面的機能*を維持・発揮するため、農業者や地域住民が協働で行う農地の維持管理や田畑の景観形成などの活動を支援します。
⑤	地域農業を活性化させるため、直売施設の充実や「あげお朝市」に対する支援や地場産品の学校給食への活用など地産地消を促進します。
⑥	農業後継者を始め、農業外からの新規就農等、市の農業を担う意欲ある農業者の支援を促進します。
⑦	遊休農地*や耕作放棄地*を解消するため、農地パトロール*を実施し、利用権設定の促進を図ります。
⑧	地産地消により、地域農業を活性化させるため、地場産品の学校給食への活用を推進します。
⑨	
⑩	
⑪	
⑫	

	R3	R4	R5	R6	R7	取組状況等	翌年度の方向性	担当課
目標値	277	277	277	277		令和5年度は延べ282件の申請があった。	継続	農政課
実績値	280	286	282					
目標値	1	1	1	1		農地所有者による市民農園の開設について随時、市民農園開設相談を受け付けた。	継続	農政課
実績値	3	3	5					
目標値	0.33	-	-	-		利用権の設定や農地中間管理事業などの活用によって農地の集積を実施した。	継続	農政課
実績値	0.44	-	-					
目標値	18	18	17	16		8月から10月にかけて利用状況調査（農地パトロール）を行うことを農業委員会だよりで周知をし、農地の適正な管理をお願いした。	継続	農業委員会事務局
実績値	19	18	17					
目標値	3	4	4	4		彩の国ふるさと給食月間に合わせ、11月の収穫時期に上尾市産の新米を全校で4回使用した。献立予定表や各学校の給食だより、学校保健課給食食材の産地紹介HPにも掲載した。	継続	学校保健課
実績値	3	4	4					
目標値								
実績値								

取組状況等	翌年度の方向性	担当課
市民農園の利用申請を受け、令和5年度は延べ282件の申請があった。区画の利用率は100%であり、既存利用者や利用待機者への案内を継続する。	継続	農政課
みどり公園課と連携し生産緑地の管理手法の一つとして、市民農園の開設についてホームページで周知した。また、農地所有者による市民農園の開設について、特定農地貸付法に基づいた市民農園開設相談を受け付けた。	継続	農政課
水利組合や環境保全会と協働し、水田や農業用排水路の藻刈り・浚渫・清掃などの維持管理作業を行った。また、農道修繕、用水路修繕、農閑期には草刈り、野焼きを実施し、用排水路の適切な維持管理を図った。	継続	農政課
地元住民による環境保全会が実施する維持管理や景観形成等の活動に対し、補助金を交付することで財政的に支援した。	継続	農政課
令和5年度は「あげお朝市・夕市」を14回、「あげお軽トラ市」を10回開催し、3年ぶりに「トマト市」を6回開催した。その他市内イベントにも参加し、地産地消に向けた地元野菜PR活動を行った。また、学校保健課と連携し、学校給食納入を希望する農家とのマッチングを行った。	継続	農政課
市内外から意欲ある農業者の就農相談を受けた。1法人が新規就農をはじめ、2名が就農研修を受け、1名が修了した。	継続	農政課
利用権設定については、随時受付をしており相談・申請しやすい体制とした。また、利用権設定満了時に補助金を交付して利用権設定の促進を図った。	継続	農政課 農業委員会事務局
農業法人と協力し、本市の産物である小松菜と枝豆を粉末に加工した。その小松菜の粉末は「揚げパン」や「すいとん」で小中学校で使用し、えだまめの粉末はホワイトソースに混ぜ込み、「グラタン」などの献立に組み込み、市内全小中学校の給食に取り入れた。	継続	学校保健課

【施策11】環境美化の推進

1. 基本情報

施策目標	ごみの散乱や不法投棄を防止するため、環境美化に対するモラルを向上し、美しいまちづくりを進めます。			
環境分野	都市・生活環境			
計画指標	都市・生活環境の住民満足度			
	2019年度実績値	29.9%	➡	2030年度目標値 35%
環境目標	快適環境の構築			

2. 環境目標に対する評価

クリーン上尾運動参加者一人当たりごみ回収量については、目標値及び前年度の実績値を上回ってしまいました。コロナ禍に伴う人流の回復により、ごみのポイ捨てが増加したことによるものと推察しており、環境美化推進員と協働して、ごみのポイ捨て防止を推進してまいります。

ごみ散乱防止ネットの配布件数についても、目標値を達成することができませんでした。配布件数については、ごみ集積所の新規開設やネットの欠損といった外的要因に左右されるものであるため、環境美化の取組としては、引き続き出前講座等でごみ散乱防止ネットの無償配布について周知するとともに、ごみの正しい分別方法について出前講座やごみ分別アプリ等での周知啓発を併せて実施する必要があります。

資源物の持ち去り行為を防止するための監視パトロールについては、昨年度から引き続き、警察と連携してパトロールを実施したことにより、持ち去りを続けていた人物を特定し、警察による注意を実施するという成果に結びつきました。

3. 関連するSDGsの項目



4. 業務指標の取組状況

No.	業務指標	基準年度実績値	方向性 単位
A	クリーン上尾運動参加者一人当たりごみ回収量	0.9	↘ Kg
B	ごみ散乱防止ネットの配布件数	136	→ 件/年
C			
D			
E			
F			

5. 実行施策の取組状況

No.	実行施策
①	ごみの適正処理とまちの環境を保全するため、道路・河川などの不法投棄ごみの撤去を行います。
②	路上へのたばこの吸殻の散乱を防止するため、「路上喫煙の防止に関する条例」に基づき、指定された区域内での路上喫煙を禁止します。
③	まちの環境美化を推進し、快適な生活環境を保持するため、空き缶等のポイ捨てやペットの排泄物の放置を防止します。
④	市民・事業者・行政が一体となってまちの環境美化を促進するため、地域で行う清掃活動を支援します。
⑤	ごみの散乱を防止するため、ごみの分別方法や収集日、リサイクル*品の回収日の周知、ごみ散乱防止ネットの設置を指導します。
⑥	資源物の持ち去り行為を防止するため、監視パトロールを強化します。
⑦	
⑧	
⑨	
⑩	
⑪	
⑫	

	R3	R4	R5	R6	R7	取組状況等	翌年度の方向性	担当課
目標値	0.8	0.7	0.7	0.8		ごみゼロの日（5月30日）を中心に「クリーン上尾運動」として各地域の住民参加による清掃活動を行った。コロナ禍後に伴う人流の回復により、ごみのポイ捨てが増加したことが、ごみ回収量が増加した要因と推察している。地域の環境美化推進員と協働で、ごみのポイ捨て防止を推進する。	継続	生活環境課
実績値	0.8	0.8	1.3					
目標値	136	136	136	136		出前講座等で、ごみ散乱防止ネットの無償配布について周知した。配布件数は、ネットの欠損等が発生する等の状況に左右されるため、常に目標値を上回り続けることは困難な状況であるが、引き続きごみの正しい分別方法と併せて周知活動を継続する。	継続	西貝塚環境センター
実績値	101	170	115					
目標値								
実績値								
目標値								
実績値								
目標値								
実績値								

取組状況等	翌年度の方向性	担当課
道路河川課と合同で道路パトロールを実施しており、現地調査などの際にも注視した。また、河川においても、現地調査などの際にパトロールを併せて実施した。市民から通報のあった不法投棄については、適切に処理した。	継続	建設管理課
JR上尾駅・北上尾駅周辺の路上喫煙禁止区域においては、指定された喫煙スペース以外での路上喫煙をしないよう、路面に啓発メッセージを表示することにより周知を図った。	継続	生活環境課
「上尾市ポイ捨て等の防止及び環境美化の促進に関する条例」に基づくポイ捨て防止の啓発活動を行なうと同時に「クリーン上尾運動」として清掃活動への支援を行った。また、令和5年度は、犬の糞等放置防止については啓発用表示板260枚を作成したので、順次掲示していく。猫については、令和5年度は22件の相談（糞尿被害を含む）があり、飼い主及び餌やりを行なう人に対し注意喚起を行なった。	継続	生活環境課
地域の環境整備を図るため衛生事業を行う環境美化推進員を委嘱し、上尾市環境美化推進員連合会に補助金を交付した。また、ごみゼロの日（5月30日）に準じて各地域の住民により行われる清掃活動「クリーン上尾運動」を支援した。	継続	生活環境課
ごみ収集カレンダーやごみ分別アプリ等でごみの正しい分別等を啓発するとともに、ごみ散乱防止ネット、ごみ出しルールの啓発看板を必要とする市民に無償で配布した。また、出前講座等でごみ散乱防止ネットの無償配布について周知した。	継続	西貝塚環境センター
市民からの持ち去り情報（車の特徴、持ち去りの多い地区、時間帯など）を上尾警察署に提供し、連携してパトロールを実施した結果、持ち去りを続けていた1人を上尾警察署が呼び出し注意した。今後も警察署と連携してパトロールを継続する。	継続	西貝塚環境センター

【施策12】景観の保全・整備

1. 基本情報

施策目標	良好なまちの景観を形成するため、農地の保全や周囲と調和のとれた建物への誘導を図るとともに、景観を阻害するような違法看板などを撤去します。			
環境分野	都市・生活環境			
計画指標	都市・生活環境の住民満足度			
	2019年度実績値	29.9%	➡	2030年度目標値 35%
環境目標	快適環境の構築			

2. 環境目標に対する評価

無電柱化整備延長については、西宮下中妻線1工区について整備が完了したことにより目標値を達成しました。電柱や架線が撤去されることにより、開放的な景観が整備されるとともに、歩道の利便性の工場や災害リスクの低減にもつながるため、引き続き、計画的に無電柱化の整備を実施していきます。

違反屋外広告物看板の撤去枚数については、違反屋外広告物の減少もあり、僅かに目標値を下回りました。除却枚数については、継続的な除却により屋外広告物そのものが減ったことで目標値を下回ったと捉えることもできるため、景観保全のため今後も除却に取り組みるとともに、目標値の見直しについても検討します。

撤去した自転車台数については、目標値を達成しました。継続的な違法駐輪に対する指導の成果が表れたものと評価できます。景観保全や歩道の安全性向上の観点から、今後も違法駐輪されている自転車への警告札の貼付けや撤去を実施することで放置自転車対策を推進します。

3. 関連するSDGsの項目



4. 業務指標の取組状況

No.	業務指標	基準年度実績値	方向性 単位
A	地区計画策定数（累計）	26	↗ 件
B	無電柱化整備延長	0	↗ m
C	違反屋外広告物看板の撤去枚数	9,463	↗ 枚/年
D	撤去した自転車台数	850	↘ 台/年
E			
F			

5. 実行施策の取組状況

No.	実行施策
①	良好なまちの景観を形成するため、一定規模を超える建築物や工作物の建築等が行われる際は、色彩や形状などを地域の環境と調和のとれたものとするよう指導します。
②	建築物等の色彩を周囲の環境と調和のとれたものにするため、街づくり推進条例を活用した住民主体のまちづくり活動の支援を通じて、地区計画を策定します。
③	駅周辺の中心市街地や防災上重要な都市計画道路については、防災機能の向上、通行空間の安全性、快適性の確保、良好な景観形成を図るため、無電柱化を推進します。
④	まちの景観維持のため、「埼玉県屋外広告物条例」に違反した景観を阻害するはり紙や捨て看板等の除去対策を進めます。
⑤	安全で快適に通行できる交通環境を目指して、歩道等の整備を推進します。
⑥	高齢者や障がい者、すべての人が利用しやすい道づくりのため、歩道等のバリアフリー化など、歩行空間におけるユニバーサルデザインを推進していきます。
⑦	残された田園風景を保持するため、水田や畑などが織りなす「農」の景観の保全に努めます。
⑧	歩行および自転車の利用しやすい環境づくりのため、放置自転車対策を進めます。
⑨	
⑩	
⑪	
⑫	

	R3	R4	R5	R6	R7	取組状況等	翌年度の方向性	担当課
目標値	28	28	28	28		上尾道路沿道堤崎西部地区において、建築物等に関する適正な制限により周辺環境に配慮した適正な土地利用を図るため、必要な地区計画の検討を進めた。	継続	都市計画課
実績値	28	28	28					
目標値	0	0	385	500		西宮下中妻線1工区の電線共同溝について、整備が完了した。	上尾平方線（富士見橋から市民体育館前まで）の整備に着手	道路河川課
実績値	0	0	385					
目標値	9,410	2,000	1,500	1,500		違反屋外広告物除却に係る業務委託を発注し、市内を巡回の上、簡易な違反屋外広告物（はり紙、はり札等、広告旗、立て看板等）の除却作業を実施した。	継続	都市計画課
実績値	1,879	1,340	1,454					
目標値	230	220	210	200		放置禁止区域内に放置されている自転車に対して、警告札を貼り付け自転車の放置に対する意識づけを行うとともに、放置自転車の撤去作業を原則として月4回行った。また、撤去自転車のうち、再利用可能な自転車については埼玉県自転車軽自動車商協同組合上尾支部に譲渡した。	継続	交通防犯課
実績値	177	212	173					
目標値								
実績値								
目標値								
実績値								

取組状況等	翌年度の方向性	担当課
埼玉県景観条例に基づき、届出審査において対象となる建築物（工作物）の色彩や形状などについて、周辺環境と調和のとれた良好な景観の形成に資する計画となるよう、協議・助言を実施した。（届出審査6件）	継続	都市計画課
上尾道路沿道堤崎西部地区において、建築物等に関する適正な制限により周辺環境に配慮した適正な土地利用を図るため、必要な地区計画の検討を進めた。	継続	都市計画課
現在事業中である西宮下中妻線1工区の電線共同溝（385m）整備をした。	継続	道路河川課
違反屋外広告物除却に係る業務委託を発注し、市内を巡回の上、簡易な違反屋外広告物（はり紙、はり札等、広告旗、立て看板等）の除却作業を実施した。（年30回）	継続	都市計画課
上尾駅西口ロータリーの歩道リニューアル工事の検討を行った。	上尾駅西口ロータリーの歩道リニューアル工事の着手	道路河川課
上尾駅西口ロータリーの歩道リニューアル工事の検討に伴い、視覚障がい者の安全な利用を図るため、点字ブロックの設置を計画した。	上尾駅西口ロータリーの歩道リニューアル工事の実施に伴い、点字ブロックを設置	道路河川課
水利組合や環境保全会と協働し、水田や農業用排水路の藻刈り・浚渫・清掃などの維持管理作業を行った。また、農道修繕、用水路修繕、農閑期には草刈り、野焼きを実施し、用排水路の適切な維持管理による「農」環境の保全を図った。	継続	農政課
放置禁止区域内に放置されている自転車に対して、警告札を貼り付け自転車の放置に対する意識づけを行うとともに、放置自転車の撤去作業を原則として月4回行った。また、撤去自転車のうち、再利用可能な自転車については埼玉県自転車軽自動車商協同組合上尾支部に譲渡した。	継続	交通防犯課

【コラム】地産地消の取組み

地産地消に向けて、農産物直売所の管理運営や農産物直売イベントの開催を行っています。生産者が直接販売することで、消費者との信頼関係を築き、地元農産物への関心や認知度を向上させ、地産地消を推進していきます。

・上尾市農産物直売所

上尾駅西口の宏栄橋の下にある上尾市農産物直売所では、4軒の市内農家が日替わりで出店し、農産物の対面販売を行っています。



・あげお朝市、夕市

毎月第四土曜日（夕市は不定期）に JR 上尾駅自由通路において、上尾市農産物直売組合や上尾市花卉園芸研究会、上尾市酪農協会などの市内農業者による地元農作物の対面販売を行っています。



・軽トラ・ファーマーズマーケット

市内イベント広場や公園、他イベント会場に軽トラックで直接乗り付け、荷台を陳列台とし、地元農産物の対面販売を行います。



・トマト市

JR 上尾駅自由通路にて、上尾市施設園芸研究会の会員が生産したトマトの対面販売を行います。収穫の時期に合わせて毎週開催しています。（4月～6月）

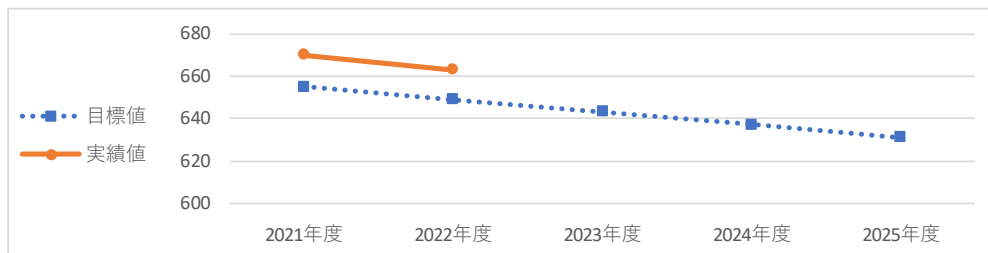


3. 資源循環分野

計画指標 (ゴール指標)		1人1日当たりのごみ排出量(家庭部門)					単位:g/人・日
2018年度 実績値		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2030年度 目標値
673	目標値	655	649	643	637	631	597
	実績値	670	663				

※ 一般廃棄物処理実態調査(環境省)の公表結果より、直近の実績値として2018年度の値を基準値としている。

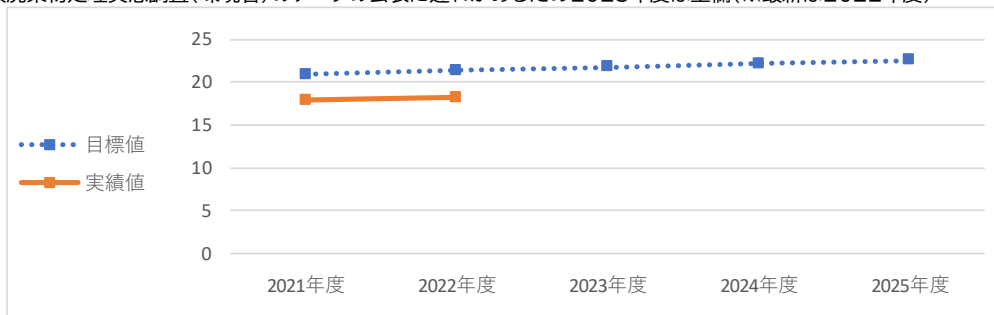
※ 一般廃棄物処理実態調査(環境省)のデータの公表に遅れがあるため2023年度は空欄(※最新は2022年度)



計画指標 (ゴール指標)		ごみのリサイクル率					単位:%
2018年度 実績値		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2030年度 目標値
19.7	目標値	20.9	21.3	21.7	22.1	22.5	24.7
	実績値	17.9	18.2				

※ 一般廃棄物処理実態調査(環境省)の公表結果より、直近の実績値として2018年度の値を基準値としている。

※ 一般廃棄物処理実態調査(環境省)のデータの公表に遅れがあるため2023年度は空欄(※最新は2022年度)



【計画指標に対する評価】

2022年度の計画指標については目標値を達成することができませんでしたが、前年度の実績値を上回りました。各業務指標等の取組の成果が一定程度出ていると考えられます。

業務指標のうち、ごみに関する出前講座受講者数(累計)についても目標値を達成することができませんでしたが、その他の取組として、ごみの分別やリサイクルに取り組んでいる団体の活動報告を環境推進大会で実施したことや、中学校や上尾駅自由通路で、ごみ減量や食品ロスに関するパネルを展示したことで、市民への周知啓発に取り組みました。



地域リサイクル活動による資源回収割合については、地域社会の状況の変化や資源物の持ち込み先が増加したこと等により、今後減少していくことも想定されますが、地域活性化にもつなげる取組のため継続して支援していくことが重要です。また、自発的にリサイクル・リユース活動に取り組んでもらうため、市民の方に啓発を図ってまいります。

【市民・事業所の活動方針】

- ・ 地域のリサイクル活動やフードドライブのイベントに参加する。参加した内容をSNS等を通じて、周囲に啓発する。
- ・ 不要になったものはすぐに捨てるのではなく、必要としている人に譲ったり、修理して使うなど再利用・再資源化に努める。

【施策13】ごみの発生抑制(REDUCE)の推進

1. 基本情報

施策目標	ごみの排出量を削減することは、市内から発生する温室効果ガス [*] を削減することにもつながります。ごみの発生抑制を推進するため、市民・事業者に対して啓発・指導を行います。			
環境分野	資源循環 [*] 分野			
計画指標	1人1日当たりのごみ排出量（家庭部門）			
	2018年度実績値	673 g/人・日		2030年度目標値 597 g/人・日
計画指標	ごみのリサイクル率			
	2018年度実績値	19.7%		2030年度目標値 24.7%
環境目標	循環型社会の形成			

2. 環境目標に対する評価

<p>ごみに関する出前講座受講者数（累計）については、目標値を達成することができませんでした。今後は、市民の出前講座に対する認知度の向上を図るため、SNS等を活用した周知を実施し、必要があります。</p> <p>廃棄物の最終処分割合については、焼却灰のセメント原料化等を進めたことが、最終処分割合の減少につながったため、目標を達成することができました。継続して廃棄物の原料化に取り組み、次年度以降も目標達成できるよう努めます。また、最終処分場の搬入ルールを違反することがないよう、焼却残渣の異物混入が発生することがないよう、今後も確認を徹底します。</p> <p>建設工事における廃棄物の処理が適切に行われているか確認するため、解体現場へのパトロールを実施しています。今後も事業者にはパトロールをとおして、建設工事における廃棄物の発生を抑制し、分別や再資源化をするよう協力を依頼してまいります。</p>

3. 関連するSDGsの項目



4. 業務指標の取組状況

No.	業務指標	基準年度実績値	方向性 単位
A	ごみに関する出前講座受講者数（累計）	584	↗ 人
B	廃棄物の最終処分割合	8.4	↘ %
C			
D			
E			
F			

5. 実行施策の取組状況



No.	実行施策
①	家庭ごみの減量化と資源循環のため、ごみの減らし方やリサイクルについて積極的な情報発信を実施します。
②	買い物時のごみの発生を抑制するため、事業者とともに過剰包装の辞退やマイバック [*] の持参などを市民に呼びかけます。
③	ごみの減量化や資源循環のため、家庭や事業所にグリーン購入 [*] を呼びかけます。
④	生ごみの減量化およびたい肥化 [*] により資源の有効利用を図るため、家庭用生ごみ処理容器等の購入に対して補助します。
⑤	食品ロス [*] を削減するため、フードドライブなどの活動を促進します。
⑥	建設工事における廃棄物の発生を抑制するため、建築物等に係る分別解体等および再資源化等を適正に実施するよう事業者へ指導します。
⑦	
⑧	
⑨	
⑩	
⑪	
⑫	

	R3	R4	R5	R6	R7	取組状況等	翌年度の方向性	担当課
目標値	1,214	664	960	1,060		小・中学校と放課後子ども教室から依頼があり、計129人が受講されたが、目標値を達成することができなかった。今後は、出前講座についてSNS等での周知を行い、参加者の増加を目指す。出前講座以外の取組としては、上尾市環境推進大会において、ごみの分別やリサイクルに取り組んでいる団体を表彰し、活動報告を行ってもらうことで市民への啓発を図った。	継続	環境政策課
実績値	614	787	916					
目標値	8.3	8.4	9.7	9.7		最終処分場の搬入ルールを守るため、焼却残さに乾電池等の異物が混入しないように分別を徹底した。また、焼却灰のセメント原料化等を進め、最終処分量の削減に務めた。	継続	西貝塚環境センター
実績値	10.2	11.1	9.7					
目標値								
実績値								
目標値								
実績値								
目標値								
実績値								
目標値								
実績値								

取組状況等	翌年度の方向性	担当課
出前講座において、ごみの減らし方やリサイクルについて情報発信を行った。環境推進大会、上尾中学校、大石中学校、上尾駅自由通路でごみ減量に関するパネルの展示・啓発を行った。啓発資料の「雑紙捨てないで」「くらしレシピ」をイベント等で配布した。	継続	環境政策課
出前講座やホームページにおいて、過剰包装の辞退やマイバッグの持参などについて情報発信を行った。また、環境推進大会をアリオ上尾で開催し、マイバッグ持参を啓発するパネルを展示した。	継続	環境政策課
啓発資料の「くらしレシピ」において、グリーン購入を周知した。	継続	環境政策課
生ごみ処理容器等購入費補助金において、119件の補助を行った。	継続	環境政策課
埼玉県より「埼玉県下一斉フードドライブキャンペーンの実施について」の協力依頼があり、社会福祉協議会、子ども支援課、環境政策課共催で、フードドライブを実施し、環境推進大会、上尾中学校、大石中学校、上尾駅自由通路で食品ロスに関するパネルの展示・啓発を行った。また、環境推進協議会学習会にて食品ロスを題材にした講座を実施した。	継続	環境政策課
6月、10月、1月、2月の計4回、解体現場へのパトロールを行った。解体現場では、廃棄物が適切に処理されていることを確認し、事業者に分別解体及び再資源化を引き続き適正実施するよう協力を求めた。	継続	建築安全課

【施策14】ごみの再利用・再資源化(REUSE、RECYCLE)の推進

1. 基本情報

施策目標	市民・事業者の自主的な資源回収の取組を支援するとともに、市全体でごみの再利用・再資源化(Reuse、Recycle)を推進します。			
環境分野	資源循環分野			
計画指標	1人1日当たりのごみ排出量(家庭部門)			
	2018年度実績値	673 g/人・日		2030年度目標値 597 g/人・日
計画指標	ごみのリサイクル率			
	2018年度実績値	19.7%		2030年度目標値 24.7%
環境目標	循環型社会の形成			

2. 環境目標に対する評価

<p>近年の自治会・PTAの活動縮小や小売店による自発的な資源回収ボックスの設置といった資源物回収場所の増加を要因として、地域リサイクル活動による資源回収割合は、目標値を達成できませんでした。地域リサイクル活動は、ごみ減量や資源循環型社会の形成に寄与するとともに、地域リサイクル活動報奨金等による地域活動の運営費支援を通して地域活動の活性化にもつながることから、引き続き事業を実施してまいります。</p> <p>リサイクル品の持ち込み数については、委託業者による粗大ごみの戸別収集を開始したことから、目標値を上回ることができました。近年は、状態のよい家具等がリユースショップに売却される等、不用品のリユースの選択肢が多様化しています。リユースの選択肢の一つとして、環境センターのリサイクル品展示室では、持ち込まれた家具等を適切に選別し、市民への無償提供を継続して実施します。</p>

3. 関連するSDGsの項目



4. 業務指標の取組状況

No.	業務指標	基準年度 実績値	方向性 単位
A	地域リサイクル活動による資源回収割合	8.35	↗ %
B	リサイクル品の持ち込み数	36	→ 点
C			
D			
E			
F			

5. 実行施策の取組状況

No.	実行施策
①	生ごみの減量化およびたい肥化により資源の有効利用を図るため、家庭用生ごみ処理容器等の購入に対して補助します。【施策(13)と同じ】
②	地域における資源ごみのリサイクルを促進するため、地域リサイクルの活動内容や事例紹介など情報発信を行います。
③	地域における資源ごみのリサイクルを促進するため、地域でリサイクル活動を行う団体に対して支援を行います。
④	使用済み小型電子機器等の適正な処理と資源循環のため、公共施設に回収ボックスを設置して小型家電リサイクルを推進します。
⑤	収集した粗大ごみからのピックアップ、リユースを前提とした収集、リユース品の住民の持ち込みなどによるリユース活動を促進します。
⑥	
⑦	
⑧	
⑨	
⑩	
⑪	
⑫	

	R3	R4	R5	R6	R7	取組状況等	翌年度の方向性	担当課
目標値	8.4	8.0	8.0	8.0		地域リサイクル事業報奨金と地域リサイクル事業収集運搬業務を引き続き実施し、地域リサイクル活動の継続に努めているが、近年のPTAの解散等で活動団体は減少傾向である。市民に対して、地域リサイクルについて周知し資源回収割合の維持を図る。	継続	環境政策課
実績値	7.8	7.7	7.5					
目標値	40	40	63	63		環境センターに持ち込まれた家具等のうち、まだ使えるものを選別し、定期的にリサイクル品展示室に持ち込みました。	継続	西貝塚環境センター
実績値	12	63	87					
目標値								
実績値								
目標値								
実績値								
目標値								
実績値								
目標値								
実績値								

取組状況等	翌年度の方向性	担当課
生ごみ処理容器等購入費補助金において、119件の補助を行った。	継続	環境政策課
ホームページで地域リサイクル事業について、情報発信を行った。	継続	環境政策課
地域リサイクル事業報奨金をにおいて、前期は121団体、後期は118団体に支援を行った。	継続	環境政策課
小型家電については、本庁舎、各支所・出張所、西貝塚環境センターの9カ所に回収ボックスを設置し、小型家電リサイクルの推進に努めた。また、回収ボックスによる小型家電の回収とリサイクルについて、ごみ収集カレンダーやごみ分別アプリにより啓発した。	継続	西貝塚環境センター
環境センターに持ち込まれた家具等のうち、まだ使えるものを選別し、定期的にリサイクル品展示室に持ち込みました。これを必要とする市民に無償で提供した。	継続	西貝塚環境センター

【コラム】プラスチック資源化実証事業

本市では現在、ペットボトル以外のプラスチックは、基本的には可燃物として処理していますが、伊奈町との広域化、そして令和4年4月に「プラスチック資源循環促進法」されたことにより、プラスチックの資源化を含め、今の分別区分を変更することになりました。

そこで、本市が将来的にプラスチックの資源化に取り組むにあたり、本市においてプラスチックがどの程度排出され、また、分別における課題を把握するため、埼玉県で実施した「プラスチック資源化実証事業」に参加しました。実証事業では、「西貝塚自治会」「シティタワー上尾駅前自治会」に御協力いただき、一定期間、可燃ごみからプラスチックを分別していただき、集積所に出していただきました。

自治会	収集回数	総量 k g	容器包装 プラスチック		製品 プラスチック		不適合物	
			k g	%	k g	%	k g	%
西貝塚 (11月)	4	42	28.18	67.1	5.29	12.6	8.53	20.3
西貝塚 (12月)	3	27.44	17.05	62.1	5.53	20.2	4.86	17.7
シティタ ワー上尾 駅前 (12月)	3	19.62	9.43	48.1	8.87	45.2	1.32	6.7
合計	10	89.06	54.66	61.4	19.69	22.1	14.71	16.5

課題としては、資源化できない、汚れたプラスチックやその他のごみなどの不適合物が多く混入していたので、住民周知を以下に実施していくかなどが挙げられました。

今後もプラスチックの資源化を含め、新たな分別については周知していきます。



集めたプラスチック（一部）



作業風景



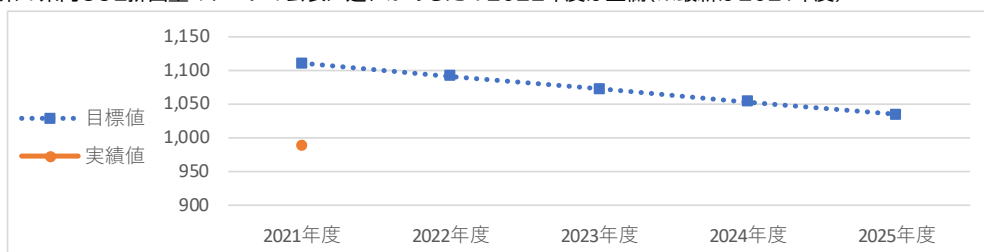
不適合物（一部）

4. 省エネルギー、再生可能エネルギー※、地球温暖化対策分野

計画指標 (ゴール指標)		市内のCO2排出量					単位:千t-CO2
2013年度 実績値		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2030年度 目標値
1,262	目標値	1,110	1,091	1,072	1,053	1,034	933
	実績値	988					

※「パリ協定」における基準年に合わせ2013年度の値を基準値としている。

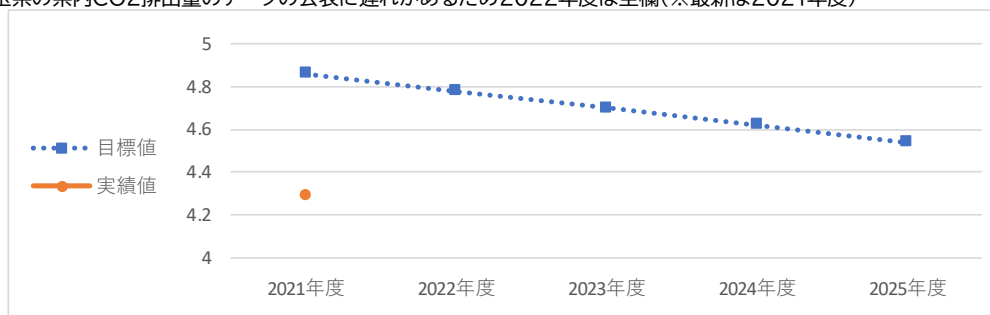
※ 埼玉県内のCO2排出量のデータの公表に遅れがあるため2022年度は空欄(※最新は2021年度)



計画指標 (ゴール指標)		人口1人当たりのCO2排出量					単位:t-CO2
2013年度 実績値		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2030年度 目標値
5.5	目標値	4.86	4.78	4.7	4.62	4.54	4.2
	実績値	4.29					

※「パリ協定」における基準年に合わせ2013年度の値を基準値としている。

※ 埼玉県内のCO2排出量のデータの公表に遅れがあるため2022年度は空欄(※最新は2021年度)



【計画指標に対する評価】

計画指標については、市内のCO2排出量、人口1人当たりのCO2排出量のいずれも目標値を達成することができました。主に、省エネ対策推進奨励金について、広報誌やホームページ、SNSで情報発信を積極的に行ったことなどが結果に表れたといえます。市民の省エネやゼロカーボンに対する関心や意識が高いこともあり、省エネ対策推進奨励金をより市民のニーズに合ったものにするるとともに、ゼロカーボン施策の推進につながるような補助メニューを検討してまいります。

また、事業所による省エネルギーに対する取組を促すため、エコアクション21取得説明会を実施する等、事業所に自発的に省エネルギーに対する取組を実施してもらえよう呼び掛けを行ってまいります。

なお、目標値については、国の地球温暖化対策計画及び埼玉県地球温暖化対策実行計画(第2期)並びに上尾市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)と整合を図るため、次回計画改定時に修正することを検討します。

【市民・事業所の活動指針】

- 電化製品の買い替えやリフォームの際には、省エネ製品などの環境に配慮した製品を選ぶ。
- 事業所については、省エネ診断※をするなど、事業から排出されるCO2抑制に取り組む。

【施策15】省エネルギー・再生可能エネルギーの推進①

1. 基本情報

施策目標	CO2排出量の削減に向けて、日常的な省エネルギー活動 [*] を継続させつつ、家庭や事業所における省エネ診断、エコチューニング [*] 等の活用を促進するなど、地域全体で省エネルギー活動を実践していきます。市役所も一事業者として、「上尾市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）」に基づき、CO2排出量の削減に向けた取組を実施します。 また、再生可能エネルギー等を積極的に活用していくことで、地球温暖化の防止と災害への備えを両立していきます。			
環境分野	省エネルギー、再生可能エネルギー、地球温暖化対策分野			
計画指標	市内のCO2排出量			
	2013年度実績値	1,262千t-CO2	➡	2030年度目標値 933千t-CO2
計画指標	人口1人当たりのCO2排出量			
	2013年度実績値	5.5 t-CO2	➡	2030年度目標値 4.2 t-CO2
環境目標	低炭素社会の構築			

2. 環境目標に対する評価

<p>世帯当たりの太陽光発電設置割合、省エネに関する出前講座受講者数、省エネ対策推進奨励金申請件数（その他省エネ対策を除く）について、目標値を達成できました。広報紙やホームページ、SNSで情報発信を積極的に行ったことが結果に結びつきました。また、市民の省エネやゼロカーボンに対する意識が高いことが伺えるため、省エネ対策推進奨励金をより市民のニーズに合ったものにするとともに、ゼロカーボン施策の推進につながるような補助メニューを検討してまいります。</p> <p>また、事業所による省エネルギーに対する取組を促すため、エコアクション21取得説明会を来年度実施できるよう取り組んでまいります。</p> <p>（施策15②に続く）</p>
--

3. 関連するSDGsの項目



4. 業務指標の取組状況

No.	業務指標	基準年度実績値	方向性 単位
A	世帯当たりの太陽光発電設置割合	4.7	↗ %
B	太陽熱を利用した温水機器等がある住宅の割合	2.8	↗ %
C	太陽光を利用した発電機器がある住宅の割合	4.3	↗ %
D	省エネに関する出前講座受講者数	0	↗ 人/年
E	省エネ対策推進奨励金申請件数（省エネ設備）	169	→ 件/年
F	省エネ対策推進奨励金申請件数（次世代自動車）	12	→ 件/年

5. 実行施策の取組状況

No.	実行施策
①	家庭におけるエネルギー使用の無駄を省き、CO ₂ 削減を図るため、家庭でできる省エネルギー活動を積極的にPRします。
②	家庭におけるエネルギー使用量の削減を図るため、市民に向けて太陽光・太陽熱・エネファーム（家庭用燃料電池） [*] 等の情報提供を行い、設備更新を促します。
③	家庭におけるエネルギー使用量の削減を図るため、市民に向けてホームエネルギーマネジメントシステム（HEMS [*] ）等の情報提供を行い、設置を促します。
④	建物の遮熱を図り、冷房の使用を抑えるため、家庭にグリーンカーテン [*] を普及・促進します。
⑤	事業所におけるエネルギー使用の無駄を省き、CO ₂ 削減・コスト削減を図るため、省エネ診断やエコチューニング等の取組を積極的にPRします。
⑥	事業所におけるエネルギー使用量の削減を図るため、事業者に向けて太陽光・太陽熱・コージェネレーション設備（熱電併給システム）等の情報提供を行い、設備更新を促します。
⑦	「上尾市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）」を推進し、市の公共施設および事務事業の実施により排出される温室効果ガスの削減を図ります。
⑧	CO ₂ が排出されないクリーンエネルギー [*] の利用を促進するため、太陽光発電や地中熱 [*] ヒートポンプなど再生可能エネルギーの活用に関する情報提供を行います。
⑨	学校の緑を維持する為、敷地内の樹木を適切に管理します。
⑩	建物の遮熱を図り、冷房の使用を抑えるため、学校にグリーンカーテンを普及・促進します。
⑪	CO ₂ 削減効果の高い電気自動車を普及させるため、電気自動車の購入に対する補助と充電設備の利用を促進します。
⑫	自動車からのCO ₂ やその他の排出ガスを抑制するため、市内循環バスを中心とする公共交通機関の充実や利便性の向上を図り、市民や事業者公共交通機関利用の実践を促します。 【施策(5)と同じ】

	R3	R4	R5	R6	R7	取組状況等	翌年度の方向性	担当課
目標値	5.1	5.3	5.5	6.0		太陽光発電普及促進のため、太陽光発電システム※が対象となっている省エネ対策推進奨励金について、広報誌やホームページ、SNSでの情報発信をした。	継続	環境政策課
実績値	5.1	5.5	5.9					
目標値	2.9	2.9	2.9	2.9		太陽熱温水機器普及促進のため、省エネ対策推進奨励金について広報誌やホームページ、SNSでの情報発信や意識啓発を実施した。	継続	環境政策課
実績値	-	-	-					
目標値	4.9	5.2	5.3	5.5		太陽光発電設備の普及の更なる促進のため、省エネ対策推進奨励金について広報誌やホームページ、SNSでの情報発信や意識啓発を実施した。	継続	環境政策課
実績値	-	-	-					
目標値	10	40	50	60		中学校の依頼のもとに出前講座を行い、79人の生徒が受講された。	継続	環境政策課
実績値	30	60	79					
目標値	174	170	170	270		再生可能エネルギー利用である太陽光発電システムについて、省エネ対策推進奨励金として市ホームページや広報誌で周知し、普及促進に努めた。	継続	環境政策課
実績値	151	132	269					
目標値	16	20	60	60		次世自動車の特徴について、上尾市Webサイトで情報発信をした。	継続	環境政策課
実績値	20	61	64					

取組状況等	翌年度の方向性	担当課
出前講座において、家庭でできる省エネルギー活動を案内した。啓発資料の「くらしレシピ」をイベント等で配布した。	継続	環境政策課
太陽光・太陽熱・エネファーム（家庭用燃料電池）等の補助金である省エネ対策推進奨励金について、ホームページ・出前講座等で周知啓発した。	継続	環境政策課
ホームエネルギーマネジメントシステム（HEMS）等の補助金である省エネ対策推進奨励金について、ホームページ・出前講座等で周知啓発した。	継続	環境政策課
グリーンカーテンの補助金である省エネ対策推進奨励金について、ホームページ・出前講座等で周知啓発した。	継続	環境政策課
事業所へ省エネルギー等の環境経営システムの構築を促すため、事業所のエコアクション21取得の推進方法等について検討し、令和6年度に、エコアクション21取得説明会を実施する予定。	7月 エコアクション21取得説明会開催	環境政策課
市内事業所を訪問し、脱炭素に関するヒアリングを実施した際に、太陽光・太陽熱・コージェネレーション設備等の情報提供を行った。	7月 エコアクション21取得説明会開催	環境政策課
R4年度の「第3次上尾市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）」策定に向けて各課に周知・共有し、エネルギー使用量の削減を呼びかけた。	継続	環境政策課
省エネ対策推進奨励金のホームページやパンフレットにおいて、太陽光発電システムの補助を行っていることを周知啓発した。	継続	環境政策課
小学校で剪定及び伐採等業務を16本、伐採工事を9本、中学校で剪定及び伐採等業務を10本実施し、樹木を適正に維持できるよう努めた。また、危険樹木伐採剪定業務を全校を対象に実施し、施設利用者の安全確保とともに維持管理を継続できるようにした。	継続	教育総務課
令和5年5月、大石北小学校においてグリーンカーテンを設置した。遮熱効果等において一定の効果を得た。	継続	環境政策課 教育総務課
電気自動車等の補助金である省エネ対策推進奨励金について、ホームページ・出前講座等で周知啓発した。	継続	環境政策課
運行時刻、路線ルート情報、バスロケーションシステムについて、上尾市HP、時刻表、マップに記載し、市役所、支所・出張所、一部公共施設等に配布。市内転入者に公共交通マップを配布。運転免許証自主返納者（75歳以上対象）に市内循環バス「ぐるっとくん」の乗車回数券、時刻表、市内循環バスのマップを配布。また、11月に開催された「第48回あけお産業祭」に「ぐるっとくん」のバス車両を展示、乗車体験を実施した。	継続	交通防犯課

【施策15】省エネルギー・再生可能エネルギーの推進②

1. 基本情報

施策目標	CO2排出量の削減に向けて、日常的な省エネルギー活動を継続させつつ、家庭や事業所における省エネ診断、エコチューニング等の活用を促進するなど、地域全体で省エネルギー活動を実践していきます。市役所も一事業者として、「上尾市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）」に基づき、CO2排出量の削減に向けた取組を実施します。 また、再生可能エネルギー等を積極的に活用していくことで、地球温暖化の防止と災害への備えを両立していきます。			
環境分野	省エネルギー、再生可能エネルギー、地球温暖化対策分野			
計画指標	市内のCO2排出量			
	2013年度実績値	1,262 千t-CO2	➡	2030年度目標値 933 千t-CO2
計画指標	人口1人当たりのCO2排出量			
	2013年度実績値	5.5 t-CO2	➡	2030年度目標値 4.2 t-CO2
環境目標	低炭素社会の構築			

2. 環境目標に対する評価

<p>市の公共施設および事務事業からの温室効果ガスの削減率と温室効果ガス排出量については、目標値を達成することができました。各所属で職場計画書を作成してもらうことで、CO2削減における機運を醸成し、目標値の達成につなげました。一方で、温室効果ガス排出量については、昨年度の実績値を上回ってしまったため、引き続き各所属へCO2削減についての呼び掛けを図ります。</p> <p>公共交通の観点からは、市内循環バスを中心とした公共交通機関の充実や利便性の向上を図るため、ぐるっとくんの運行の見直しを進めることで、利用者の増加を目指します。</p> <p>また、自転車レーンの整備延長についても、計画に基づき今後も適宜整備し、良好な自転車環境の整備に努めます。</p> <p>これらの事業を行うことで、脱炭素社会の構築を推進します。</p>
--

3. 関連するSDGsの項目



4. 業務指標の取組状況

No.	業務指標	基準年度実績値	方向性 単位
G	省エネ対策推進奨励金申請件数（その他省エネ対策）	45	→ 件/年
H	市の公共施設および事務事業からの温室効果ガスの削減率	9.1	↗ %
I	市の公共施設および事務事業からの温室効果ガス排出量	16,786	↘ t-CO2
J	ぐるっとくんの年間利用者数（再掲）	480,306	↗ 人/年
K	自転車レーンの整備延長	5.6	↗ Km
L			

5. 実行施策の取組状況

No.	実行施策
⑬	市民の自転車利用を促進するため、事業者との協働による計画的・効果的な駐輪場の整備手法を研究します。
⑭	自動車からのCO ₂ やその他の排出ガスを抑制するため、市民や事業者エコドライブやアイドリングストップの実践を促します。
⑮	自転車が安全に走ることができる環境整備のため、「上尾市都市計画マスタープラン2020」に掲げる、自転車レーン整備優先エリアの整備を進めます。
⑯	
⑰	
⑱	
⑲	
⑳	
㉑	
㉒	
㉓	
㉔	

【施策16】地球温暖化への適応策の推進

1. 基本情報

施策目標	これまでの温室効果ガスの発生抑制のための「緩和策 [*] 」の一層の推進に加えて、地球温暖化による影響に対する「適応策 [*] 」を講じていく必要があります。なかでも、本市での被害が懸念される地球温暖化による影響として、「熱中症」「ゲリラ豪雨 [*] 等による浸水被害」などへの備えを推進していきます			
環境分野	省エネルギー、再生可能エネルギー、地球温暖化対策分野			
計画指標	市内のCO2排出量			
	2013年度実績値	1,262 千t-CO2	➡	2030年度目標値 933 千t-CO2
計画指標	人口1人当たりのCO2排出量			
	2013年度実績値	5.5 t-CO2	➡	2030年度目標値 4.2 t-CO2
環境目標	低炭素社会の構築			

2. 環境目標に対する評価

<p>雨水貯留タンク設置補助件数については、目標値を達成することができませんでした。昨年度と同程度の結果となってしまったため、PR方法等を再検討する必要があります。</p> <p>イツモ防災講座（マイタイムラインを含む）受講者数については、目標値を大幅に上回りました。コロナ禍が明けたことで講座の開催回数を大幅に増やしたことが成果として表れました。気候変動の影響に伴う、台風の勢力の強大化や豪雨の回数が増加していることから、災害の発生が懸念されるため、本事業については市民の防災意識の向上の一助となるよう継続して取り組みます。</p>

3. 関連するSDGsの項目



4. 業務指標の取組状況

No.	業務指標	基準年度実績値	方向性 単位
A	雨水貯留タンク [*] 設置補助件数	28	→ 件/年
B	イツモ防災講座（マイタイムライン [*] を含む）受講者数	2,412	→ 人/年
C			
D			
E			
F			

5. 実行施策の取組状況

No.	実行施策
①	ヒートアイランド現象を緩和するため、グリーンカーテンの設置をはじめ、緑化を指導し、まちなかの緑を増やします。
②	熱中症予防に向け、市民や事業者に打ち水 [*] などの暑さへの対策を広く呼びかけます。
③	ゲリラ豪雨による浸水被害を軽減するため、市民や事業者へ雨水浸透ます [*] や雨水貯留タンクの設置を呼びかけるとともに、雨水貯留槽 [*] の設置や透水性舗装 [*] の整備などによる雨水流出抑制を指導します。
④	ゲリラ豪雨による浸水被害に備えるため、浸水が予想されるエリアや避難場所の周知、市民の防災意識の向上を促進します。
⑤	上尾市防災士協議会と連携し、マイタイムライン等普段の備えを具体的に分かりやすく伝えていくことで、防災行動の普及啓発に努めます。
⑥	
⑦	
⑧	
⑨	
⑩	
⑪	
⑫	

	R3	R4	R5	R6	R7	取組状況等	翌年度の方向性	担当課
目標値	28	32	32	32		年2回広報あげおに掲載、イベントにてPRを実施したが、目標値を達成できなかったため、PR方法を再検討する。	継続	建設管理課
実績値	27	12	14					
目標値	500	500	500	1,000		マイタイムライン研修【上尾市役所新規採用職員】（52名）、マイタイムラインワークショップ【原市地区自主防災連合会】（21名）、【南中学校】（159名）、【大谷本郷地区住民】（30名）等を実施し、市民の防災意識の向上を促進した。	継続	危機管理防災課
実績値	525	500	2,025					
目標値								
実績値								
目標値								
実績値								
目標値								
実績値								
目標値								
実績値								

取組状況等	翌年度の方向性	担当課
戸崎公園、自然学習館でグリーンカーテンを実施した。大石中学校横のプランターに草花を植栽した。グリーンカーテンの補助金である省エネ対策推進奨励金について、ホームページ・出前講座等で啓発した。	継続	みどり公園課 環境政策課
環境啓発資料である「くらしレシビ」において、クールシェア方法の周知を行った。	継続	環境政策課
開発行為の事前相談の際に、事業者等に対し雨水浸透貯留施設の設置の推進を実施した際に、併せて雨水貯留タンクへの普及啓発も行った。	継続	建設管理課
マイタイムライン研修【上尾市役所新規採用職員】（52名）、マイタイムラインワークショップ【原市地区自主防災連合会】（21名）、【南中学校】（159名）、【大谷本郷地区住民】（30名）を実施し、市民の防災意識の向上を促進した。	継続	危機管理防災課
マイタイムライン研修【上尾市役所新規採用職員】（52名）、マイタイムラインワークショップ【原市地区自主防災連合会】（21名）、【南中学校】（159名）、【大谷本郷地区住民】（30名）を実施し、市民の防災意識の向上を促進した。	継続	危機管理防災課

【コラム】カーボンオフセット事業

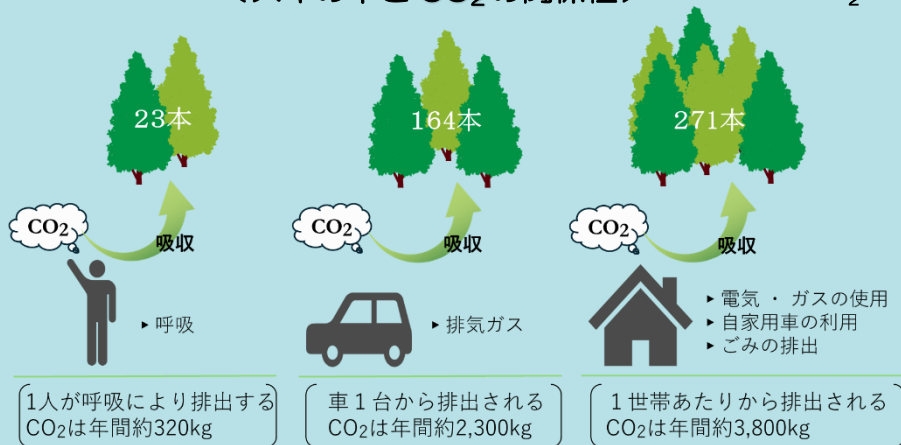
上尾市は、令和4年8月に群馬県片品村との森林整備に関する協定を締結し、5年間かけて片品村（あげおの森）の森林整備事業を行っております。この事業で得られたCO₂吸収量により、カーボンオフセットを行います。

令和5年度の片品村森林整備事業におけるCO₂吸収量については、群馬県（森林のCO₂吸収量認証制度）より「6t」と認証されました。



令和8年度には「あげおの森」で上尾市と片品村の小中学生が交流を深めながら環境学習ができるように準備を進めています。また、環境学習の他に、森林を活用したイベント（木工教室や森林散策等）の企画も考えており、CO₂を吸収するだけでなく、自然に触れながら環境問題について学べる機会を作ることができます。

＜スギの木とCO₂の関係性＞ ※スギ1本のCO₂吸収量 ⇒ 14kg/年



5. 環境づくり分野

計画指標 (ゴール指標)		「環境活動に参加したい」と思う人の割合					単位:%
2019年度 実績値		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2030年度 目標値
2.3	目標値	-	-	-	3.55	-	5
	実績値	-	-	-			

※環境基本計画策定(改訂)時の市民アンケートに基づくため、次回アンケート時(2024年度)に確認する。



【計画指標に対する評価】

環境教育・環境学習の推進については、目標を達成できるよう学習会や講座のPR方法を再検討する必要があります。一方で、学習会や講座以外の取組として、環境推進大会の開催や体験型自然学習会、環境保全団体、事業者との環境保全活動に実施したことで、環境意識の向上について努めています。

協働による環境活動の推進については、目標を達成することができました。クリーン上尾運動参加人数から見て取れるとおり、市民の環境美化に対する意識が行動にもつながっており、非常に良い影響が出ています。また、地域活動のつながりを深めるといった副次的な効果もあるため、今後も継続して取り組んでまいります。

【市民・事業所の活動指針】

- ・興味がある環境啓発イベントに参加する。参加したイベント内容をSNSなどを利用し、周囲に啓発する。

【施策17】環境教育・環境学習の推進

1. 基本情報

施策目標	子どもから大人まで全ての世代の環境意識の向上を目指し、環境について学ぶ機会を増やします。そのために、学校や地域などでの環境教育の推進を支援するとともに、次世代の環境活動をけん引する新たな人材の確保と育成を図ります。			
環境分野	環境づくり分野			
計画指標	「環境活動に参加したい」と思う人の割合			
	2019年度実績値	2.3%	→	2030年度目標値 5%
環境目標	環境活動の活発化			

2. 環境目標に対する評価

<p>環境推進協議会学習会参加者数、環境学習講座参加者数は、いずれも目標値を達成できなかったため、PRや周知方法を再検討する必要があります。学習会以外の環境学習の場としては、環境推進大会において、あげお環境賞受賞団体による活動報告、環境保全団体によるミニ講演、パネル展示を実施し、中学校や上尾駅自由通路でのパネル展示を実施したことで環境に対する意識の高揚を図りました。また、体験型環境学習の場として、サクラソウトラスト地での環境保全活動や鴨川の冬鳥観察会を実施することで、地域に残る自然とのふれあいを通して、環境保全に関する啓発を行いました。また、上尾ものづくり協同組合等の事業者と協働して環境保全活動に取り組みました。</p> <p>今後は、学習会の参加者数の目標達成を目指すとともに、学習会以外の取組も並行して実施することで、環境意識の向上を図ってまいります。</p>
--

3.  

4. 業務指標の取組状況

No.	業務指標	基準年度実績値	方向性 単位
A	環境推進協議会学習会参加者数	52	↑ 人/年
B	市内小中学校での環境パネルの展示回数	1	↑ 回/年
C	温暖化対策講座実施校数	2	↑ 校/年
D	環境学習講座参加者数	0	↑ 人/年
E			
F			

5. 実行施策の取組状況

No.	実行施策
①	環境への理解を深めるため、環境教育に必要な資料やパンフレット等を充実させます。
②	地域における環境学習の機会を増やすため、環境推進協議会において市民向けの環境に関する学習会を開催します。
③	環境教育の機会を増やすため、子どもから大人まで参加できる環境イベントの定期開催や市民団体・事業者・学校・地域が実施する環境への取組を支援します。
④	市民が自然とふれあう機会を増やすため、自然観察会などの体験型環境学習を充実させます。【施策(2)と同じ】
⑤	将来にわたって環境活動を継続するため、次世代の環境活動をけん引するリーダーやボランティアなど新たな人材の確保と育成を図ります。
⑥	子どもの時からの環境教育の機会を増やすため、学校における温暖化対策講座等の実施を進めます。
⑦	地域における環境学習の機会を増やすため、公民館において市民向けの環境に関する講座を開催します。
⑧	市民が自然とふれあう機会を増やすため、市民団体や事業者と協働し、学習・体験教室などの体験型環境学習を充実させます。【施策(2)と同じ】
⑨	市民が農とふれあう機会を増やすため、農業体験などの体験型学習を充実させます。【施策(2)と同じ】
⑩	
⑪	
⑫	

	R3	R4	R5	R6	R7	取組状況等	翌年度の方向性	担当課
目標値	60	20	30	15		令和5年11月に第1回学習会「食品ロスを減らそう」を開催した。目標値を達成できるよう、市民の関心があるテーマを検討するとともに周知方法を見直していく。	継続	環境政策課
実績値	20	66	8					
目標値	2	2	2	2		令和5年9月に、大石中学校及び上尾中学校において環境パネル展示を実施し、市内の環境保全団体の活動や地球温暖化、食品ロスなどの環境問題についてPRした。また、各1クラスアンケートを実施し、中学生の意識を調査することができた。	継続	環境政策課
実績値	2	2	2					
目標値	2	3	3	2		環境政策課の作成する「あげお市政出前講座」のチラシを市内全小・中学校に案内した。	継続	指導課
実績値	2	1	2					
目標値	10	25	25	20		平方公民館講座「環境講座 SDGsでこれからの地球を考えよう」を実施し、14名が参加した。	継続	生涯学習課
実績値	21	10	14					
目標値								
実績値								
目標値								
実績値								

取組状況等	翌年度の方向性	担当課
環境啓発資料である「くらししび」や、出前講座に用いている資料の情報を更新した。また、環境への理解を深めるた、環境推進大会や中学校、上尾駅自由通路にてパネル展示を行った。	継続	環境政策課
令和5年12月にサクラソウトラスト地の管理作業及び自然観察会を開催し、サクラソウトラスト地の貴重な自然環境についての説明をした。	継続	環境政策課
令和5年11月に食品ロスに関する学習会を開催したほか、12月にサクラソウトラスト地の管理作業と自然観察会を開催した。	継続	環境政策課
令和5年12月に、自然保護を含めた市の取組やサクラソウトラスト地の環境保全活動に関する学習会を開催した。また、同月にサクラソウトラスト地の管理作業及び自然観察会を開催し、サクラソウトラスト地の貴重な自然環境についての説明をした。令和6年1月には、鴨川の冬鳥観察会を実施し、地域に生息している野鳥の観察を通して環境保全に対する啓発を図った。	継続	環境政策課
環境に関するボランティア人材の確保を目的の一つとして、上尾市環境推進大会で、あげお環境賞を受賞した団体の活動報告や環境保全団体によるミニ講演を実施し、活動の周知啓発を行った。 地域の環境美化活動のリーダーとして、令和5年度は環境美化推進員223名を委嘱した。任期は2年である。	継続	環境政策課 生活環境課
環境政策課の実施する小・中学校向けの地球環境に関する講座を広く紹介した。	継続	指導課
平方公民館講座「環境講座 SDGsでこれからの地球を考えよう」を実施し、14名が参加した。	継続	生涯学習課
上尾ものづくり協同組合や領工会、環境保護団体と協働して環境保全活動を実施した。 また、上尾駅自由通路及び中学校において、環境パネル展示を実施し、環境保護団体や事業者の環境活動をPRした。	継続	環境政策課
農業体験教室（さつまいも、田植え、稲刈り、大根、じゃがいも）の植付け、収穫を市内の小中学生と家族により8回実施した。 田植え、稲刈り教室では水田に生息する生き物の調査を同時に行い農業の大切さと環境維持の必要性を実体験し学習した。	継続	農政課

【施策18】協働による環境活動の推進

1. 基本情報

施策目標	<p>将来の上尾市、将来の地球の環境を守るためには、先人から受け継いできた誇るべき上尾市の環境を守り、育て、次世代へと継承していく必要があります。</p> <p>そのため、市民・事業者・行政がそれぞれ担う役割を認識し、その役割を果たしつつ、協働体制をより強固なものとする事で、十分な効果を発揮できるよう協働による環境活動の底上げを図っていきます。</p>			
環境分野	環境づくり分野			
計画指標	「環境活動に参加したい」と思う人の割合			
	2019年度実績値	2.3%	➡	2030年度目標値 5%
環境目標	環境活動の活発化			

2. 環境目標に対する評価

<p>あげお環境賞受賞団体の紹介件数、クリーン上尾運動参加人数ともに目標値を達成することができました。特に、クリーン上尾運動参加人数については、2年連続で2万人を超えており、市民の環境美化に対する意識が行動にもつながり、とても良い成果が表れています。地域活動の活性化の面でも効果があるため、引き続きクリーン上尾運動に対する支援を継続します。</p> <p>また、水利組合との維持管理作業、上尾ものづくり協同組合や領工会との環境保全活動を実施し、事業者と協働して環境保全活動に取り組むことができました。</p> <p>今後も市民・事業者と協働して、環境活動に取り組むよう努めてまいります。</p>

3. 関連するSDGsの項目



4. 業務指標の取組状況

No.	業務指標	基準年度実績値	方向性 単位
A	あげお環境賞*受賞団体の紹介件数	2	→ 件/年
B	クリーン上尾運動参加人数	18,762	→ 人/年
C			
D			
E			
F			

5. 実行施策の取組状況

No.	実行施策
①	将来にわたって自然が豊かな美しいまちを守るため、市民一人ひとりが日常的な習慣として環境保全行動に取り組めるように、広報やイベントを通じて啓発します。
②	市民がふれあえる自然を守るため、市民団体や事業者が行う自然環境の保全活動を支援します。【施策(2)と同じ】
③	NPO や民間事業者等が市民、行政と協働して行う環境活動に関する情報を収集するとともに、取組拡大に向けて広く周知啓発を行います。
④	環境活動の更なる拡大を図るため、環境保全活動を行うグループ間の交流を促進します。
⑤	市民・事業者・行政が一体となってまちの環境美化を促進するため、地域で行う清掃活動を支援します。【施策(11)と同じ】
⑥	農地の多面的機能を維持・発揮するため、農業者や地域住民が協働で行う農地の維持管理や田畑の景観形成などの活動を支援します【施策(10)と同じ】。
⑦	
⑧	
⑨	
⑩	
⑪	
⑫	

	R3	R4	R5	R6	R7	取組状況等	翌年度の方向性	担当課
目標値	2	2	2	2		上尾市環境推進大会2023において、あげお環境賞の授賞式を執り行うとともに、受賞者による活動報告を行った。また、推進大会後に、ホームページにおいて、あげお環境賞の受賞者の紹介を行った。	継続	環境政策課
実績値	2	1	5					
目標値	19,000	19,000	19,000	19,000		ごみゼロの日（5月30日）に準じて「クリーン上尾運動」として各地域の住民参加による清掃活動を行なう。令和5年度は、のべ25日開催し、20,087人が参加した。	継続	生活環境課
実績値	12,900	21,704	20,087					
目標値								
実績値								
目標値								
実績値								
目標値								
実績値								
目標値								
実績値								

取組状況等	翌年度の方向性	担当課
環境推進大会、環境学習会、環境パネル展示、サクラソウトラスト地の管理作業及び自然観察会などのイベントを通して、環境保全活動の必要性を啓発した。	継続	環境政策課
上尾ものづくり協同組合や領工会、環境保護団体と協働して環境保全活動を実施した。また、上尾駅自由通路及び中学校において、環境パネル展示を実施し、環境保護団体や事業者の環境活動をPRした。	継続	環境政策課
事業者の活動事例として、中学校環境パネル展示及び上尾駅自由通路の環境パネル展示において、市内事業者団体「上尾ものづくり協同組合」の活動のパネルを紹介した。また、「上尾ものづくり協同組合」や「領工会」とサクラソウトラスト地の管理作業を共催したほか、埼玉中央青年会議所と共同でSDGsに関する学習会を開催した。	継続	環境政策課
上尾市環境推進大会を開催し、パネル展の開催により出展団体間の交流を促進した。上尾丸山公園の自然再生に関する意見を集約する目的で、専門家会合を年3回開催し、市内の自然保護団体に専門家として参加いただいた。また、園内で国内外来種問題を引き起こしている市民団体に対して、活動方針を再検討するように促した。地元住民による環境保全会が実施する維持管理や景観形成等の活動に取組んだ。	継続	環境政策課 みどり公園課 農政課
地域の環境整備を図るため衛生事業を行う環境美化推進員を委嘱し、上尾市環境美化推進員連合会に補助金を交付した。また、ごみゼロの日（5月30日）に準じて各地域の住民により行われる清掃活動「クリーン上尾運動」を支援した。	継続	生活環境課
地元住民による環境保全会が実施する維持管理や景観形成等の活動に対し、補助金を交付することで財政的に支援した。	継続	農政課

【コラム】環境推進協議会事業

環境推進協議会では、環境イベントや学習会を開催しているほか、あげお環境賞の贈呈などの活動や市民・事業者への環境情報の提供を行っています。

【令和4年度実績】

時期	イベント名	内容
4月	環境保全活動	サクラソウトラスト地内の雑草刈りや雑木整理
6月	環境パネル展	環境活動を紹介するパネル展示 場所：JR 上尾駅自由通路
9月	中学校環境パネル展	環境活動を紹介するパネル展示 場所：大石中学校、上尾中学校
10月	環境推進大会2023	あげお環境賞授賞式、受賞団体による活動発表、環境パネル展、アトラクション
	環境保全活動	サクラソウトラスト地内の雑草刈りや雑木整理
11月	第1回環境学習会	食品ロスを減らそう 場所：上尾公民館403講座室
12月	サクラソウトラスト地の管理作業と自然観察会	刈られたヨシを運び出す作業と現場周辺の野鳥や昆虫、植物などの観察
1月	鴨川の冬鳥観察会	鴨川沿いを徒歩で移動しながら、野鳥の観察を行う。

【コラム】第23回あげお環境賞

「あげお環境賞」は、環境の保全と創造に関する意識の醸成および行動の促進を図るため、個人、各種団体および事業者において、他の模範となる優れた取組を表彰するものです。第23回あげお環境賞では、以下の団体が受賞しました。

受賞団体	主な活動内容
三井区自治会	<p>「上尾市ごみ収集カレンダー」、「三井区リサイクル日程表」、「公園清掃日程」を1つのカレンダーに統合し、活動日程が一目で分かるようにした。</p> <p>3つの公園の管理・清掃状況を自治会ホームページに掲載し、自治会内の連帯感や良い意味での競争意識を高めた。</p> <p>月ごとの地域リサイクル収益を自治会ホームページに掲載し、リサイクルへの関心を高めた。</p>

6. 業務指標の進捗管理

計画進捗度

64% (業務指標進捗度 ○:42 -: 3 ×: 21)

※年度実績値が年度目標値を達成した業務指標の割合

評価

低調 維持 **概ね順調** 順調

評論

計画指標の目標値の達成に向けて、業務指標の全体的な進捗は概ね順調に進んでいます。ただし、業務指標ごとに目を向けると、「公害の防止」については、目標値を達成できたものが少なくなりました。望ましい環境像「安全で安心して暮らせるまちを形成している」を実現できるよう努めます。

「自然との共生」では、市民へ箱わなを貸し出し、アライグマを捕獲・駆除することで、特定外来生物による地域本来の生物への被害や農業被害等を防止に努めました。また、箱わなの台数を10台から20台に増やし、対策を強化しました。今後も同様の被害の発生を防止することに努めます。

「公害の防止」では、各種の調査を適切に実施し、適時に必要な周知や指導を行いました。問題を解決するためには、迅速に現地で調査を行い原因を特定することや適切な指導が必要であると認識しており、各種の調査については引き続き継続して実施してまいります。

「快適環境の構築」では、市民農園の開設について、随時市民農園開設相談を受け付けたことにより、市民農園の開設数が増加しました。農地所有者の高齢化や後継者不足により耕作が難しくなっている農地の活用策として期待できます。今後も相談体制を継続し、農地の保全・活用を推進します。

「循環型社会の形成」では、令和5年7月より粗大ごみ戸別収集を開始し、搬入業者にリサイクル品の選別を依頼したことにより、リサイクル品持ち込数の増加につながっていることが伺えます。今後も収集業者にリサイクル品の持ち込みについて協力を依頼するなど、リサイクル品の持ち込み数の増加やごみの最終処分割合の削減に努めます。

「低炭素社会の構築」では、ゼロカーボンシティの実現に向けて、今後も広報、ホームページ等を活用し、意識啓発に努めたことから、省エネ対策推進奨励金(省エネ設備)において、申請件数が増加しました。また、イツモ防災講座の受講者数が増加したことは、気温上昇に伴う災害発生リスクの備えとなります。今後も緩和策と適応策の両面で啓発活動に取り組みます。

「環境活動の活発化」では、あげお環境賞受賞団体の照会件数が増加し、活動報告を行うことで団体やの活動内容について、広く周知するとともに環境保全についての意識を醸成しました。

「自然との共生」については、自然観察会の参加者数(累計)(生物多様性への取組)が目標値に届きませんでした。周知を強化し、生物多様性についての啓発に努めます。


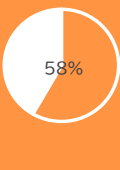
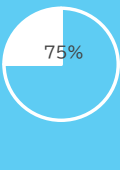
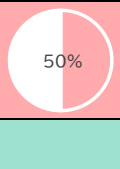
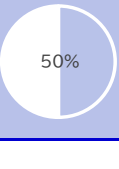
「公害の防止」では、工場・事業場の排水基準が不適合だった事業所があり、適合率が目標値に届きませんでした。定期的な監視を行い、排水基準を満たすよう指導を続けます。

「快適環境の構築」では、クリーン上尾運動参加者一人当たりごみ回収量が増加しました。コロナ禍が明け地域の活動量が増えたことにより、ごみが増加したと推測されます。ポイ捨て防止の啓発活動に努めます。

「循環型社会の形成」では、地域リサイクルの活動による資源回収割合が減っています。地域リサイクル活動に対しては、報奨金を支給し、引き続きサポートを継続します。

「低炭素社会の構築」では、ぐるっとくんの年間利用者数が、目標値を達成できませんでした。ぐるっとくんの運行の見直し等、利用者の増加を目指します。

「環境活動の活発化」では、環境学習会の参加者数について、目標値を達成することができませんでした。周知方法など改善を図り、環境活動に対する理解の促進に努めます。

望ましい環境像	環境目標	環境目標 進捗度	施策	施策 進捗度	業務指標	業務指標 進捗度			
〇〇〇〇 持低安自 続炭全と 可素で安 能かつ心 な資源し まち源あ 【あ環い げ型よ お社まな 】をの景 を次成を 世成し大 代に切 へ市 と民 っ・ ない事 で業 い者 る・ 行政 一 体 で 取 り 組 ん で い る	自然との共生		(1)生物多様性への取組	25%	緑地面積	×			
						緑地率	×		
						自然観察会の参加者数(累計)(生物多様性への取組)	×		
						特定外来生物の駆除数(アライグマ)	○		
				(2)自然とのふれあいの促進	100%	自然学習館におけるイベントの参加率	○		
						自然観察会の参加者数(累計)(自然とのふれあい)	○		
						農業体験教室の開催数(作付け・収穫)	○		
				(3)緑地の保全・創出	60%	緑地面積(再掲)	×		
						緑地率(再掲)	×		
						森林環境譲与税基金積立額	○		
						協定締結公園数	○		
						樹木管理公園数	○		
				(4)水辺環境の保全・整備	100%	主要河川パトロール回数	○		
						水路等パトロール回数	○		
						河川における不法投棄の件数	○		
	公害の防止			(5)大気汚染の防止	67%	立入事業所件数	○		
							アイドリングストップ指導率	○	
							ぐるっとくんの年間利用者数	×	
							河川調査地点数	○	
				(6)水質汚濁の防止	25%	工場・事業場の排水基準の適合率	×		
					単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換件数	×			
					公共下水道の普及率	×			
			(7)騒音・振動の防止	100%	道路騒音・振動にかかる要請限度の達成率	○			
					工業地域及び準工業地域における地区計画策定数(累計)	○			
			(8)その他の公害の防止	67%	悪臭発生源への指導実施率	○			
					ダイオキシン類等の環境基準の達成状況(大気)	○			
					野焼きパトロール回数	×			
快適環境の構築			(9)公園の整備	100%	都市公園の面積	○			
						市民1人当たりの都市公園面積	○		
						可住地面積当たりの公園面積の割合	○		
						協定締結公園数(再掲)	○		
					改修を行った公園箇所数	○			
			(10)農地の保全・活用	80%	市民農園利用者数	○			
					新規市民農園開設数(累計)	○			
					農業従事者1人当たりの経営耕地面積	-			
					全農地に占める遊休農地面積の割合	○			
					学校給食における上尾市産米使用回数	○			
			(11)環境美化の推進	0%	クリーン上尾運動参加者一人当たりごみ回収量	×			
					ごみ散乱防止ネットの配布件数	×			
			(12)景観の保全・整備	75%	地区計画策定数(累計)	○			
					無電柱化整備延長	○			
					違反屋外広告物看板の撤去枚数	×			
					撤去した自転車台数	○			
循環型社会の形成			(13)ごみの発生抑制(Reduce)の推進	50%	ごみに関する出前講座受講者数(累計)	×			
						廃棄物の最終処分割合	○		
			(14)ごみの再利用・再資源化(Reuse、Recycle)の推進	50%	地域リサイクル活動による資源回収割合	×			
					リサイクル品の持ち込み数	○			
低炭素社会の構築			(15)省エネルギー・再生可能エネルギーの推進	64%	世帯当たりの太陽光発電設置割合	○			
					太陽熱を利用した温水機器等がある住宅の割合	-			
					太陽光を利用した発電機器がある住宅の割合	-			
					省エネに関する出前講座受講者数	○			
					省エネ対策推進奨励金申請件数(省エネ設備)	○			
					省エネ対策推進奨励金申請件数(次世代自動車)	○			
					省エネ対策推進奨励金申請件数(その他省エネ対策)	×			
					市の公共施設および事務事業からの温室効果ガスの削減率	○			
市の公共施設および事務事業からの温室効果ガス排出量	○								
ぐるっとくんの年間利用者数(再掲)	×								
自転車レーンの整備延長	○								
(16)地球温暖化への適応策の推進	50%	雨水貯留タンク設置補助件数	×						
					イツモ防災講座(マイタイムラインを含む)受講者数	○			
環境活動の活発化			(17)環境教育・環境学習の推進	25%	環境推進協議会学習会参加者数	×			
								市内小中学校での環境パネルの展示回数	○
								温暖化対策講座実施校数	×
						(18)協働による環境活動の推進	100%	環境学習講座参加者数	×
					あげお環境賞受賞団体の紹介件数	○			
					クリーン上尾運動参加人数	○			